

2025年3月26日

## 第53回 上小圏域障がい者自立支援協議会 年度報告

### 目次

#### ア) 令和6年度 専門部会 重点報告

緊急ショートステイ運営委員会	.....	当日資料 I
強度行動障害支援体制整備検討委員会	.....	2

#### イ) 令和6年度 委員会・専門部会 報告

権利擁護委員会	.....	4
地域生活移行部会	.....	8
療育・発達部会	.....	21
就労支援部会	.....	26
人材育成部会	.....	30
運営委員会	.....	32
医療的ケア児等支援連携推進委員会	.....	35
地域包括ケアシステム検討委員会	.....	41

令和6年度

## 緊急ショートステイ運営委員会 年度報告 (地域生活支援拠点登録事業所連絡会同日開催)

テーマ	1 緊急ショートステイ運営委員会の開催による事業評価と検討及び本会実績報告 2 上小圏域の地域生活支援拠点に関する事業内容の周知と情報提供 3 上小地域施設連絡協議会を通じて、地域生活支援拠点への5つの機能の登録の推進
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	■ 地域生活支援拠点の強化に向けて、拠点機能を担う事業者登録の推進と地域定着支援台帳整備の更なる推進を図ります。

### ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	委員会					委員会					委員会

### ■活動内容

開催月	活動概要
第1回 5月13日	1. 第1部 令和6年度委員会事業計画について ア) 令和6年度の緊急ショートステイ事業推進について イ) 令和5年度実績報告並びに委託事業所課題の共有 2. 第2部 上小圏域地域生活拠点登録事業所連絡会（ハイブリッド開催） ア) 報酬改定を受けての加算届等、拠点登録の推進説明 場所：上田市ふれあい福祉センター
第2回 10月4日	1. 第1部 上半期緊急ショートステイ運営委員会中間報告 ア) 上半期の緊急ショートステイ実績の検証と課題検討 2. 第2部 上小圏域地域生活拠点登録事業所連絡会 ア) 拠点登録事業所間の情報交換（ネットワーク構築に向けて） イ) 令和6年度 報酬改定に伴う地域生活支援拠点の登録後の課題共有 ウ) 強度行動障害実態調査に関する協力依頼事項の説明 場所：上田市ふれあい福祉センター
第3回 3月17日	1. 第1部 令和6年2月までの緊急ショートステイ運営委員会中間報告 ア) 2月までの実績の検証と課題検討 2. 第2部 上小圏域地域生活拠点登録事業所連絡会 ア) 地域課題の検討並びに次年度に向けた拠点登録の推進説明
適時	1. 事務局会議（運営委員会内検討）地域生活支援拠点に伴う課題の検討
適時	1. 地域生活支援拠点コーディネーターの圏域課題の検討会

## ■考察・来年度に向けて

本年度より、上小圏域地域生活拠点登録事業所連絡会を緊急ショートステイ運営委員会後に開催し、情報共有の機会を年3回作りました。

### 地域生活支援拠点コーディネーター事業

障害福祉サービス事業所の立ち上げ移行、東御市内の緊急ショートステイ事業の推進について法人へ推進を図って参りました。

令和6年度に、東御市のみまき福祉会の共生型短期入所施設が、上小圏域の緊急ショートステイ事業者として登録し、令和7年度より輪番施設に加わり実践を予定している。

緊急相談支援体制の整備として、相談支援事業所の地域生活支援拠点の登録により、24時間の相談支援体制の整備を目標に、相談強化（加算）事業所の推進を図り、地域生活拠点の強化に向けて圏域内一定のエリア内に24時間の相談支援事業所の設置を図ることが出来ました。

指定特定相談支援事業所の機能強化型事業所指定（一部共同連携による指定）

東御市 上田市（真田・丸子・市内）長和町それぞれに、相談支援の拠点が設置が出来た。

## ■参加機関

福祉事業所	拠点委託法人の代表者（理事長・施設長・事業所責任者など） 自立生活援助事業所管理者・サービス管理責任者 地域生活支援拠点登録事業所の管理者・責任者 機能強化型相談支援事業所 管理者・相談支援専門員（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ事業所）
行政機関	東御市福祉課係長、長和町町民福祉課係長、 青木村住民福祉課係長、長野県上田保健福祉事務所福祉課係長
委員長	上田市障がい者支援課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター

令和6年度

上小圏地域生活支援拠点プロジェクト  
緊急シヨートステイ運営状況報告

【域生活支援拠点プロジェクト】

緊急シヨートステイ運営委員会

令和6年度（10月～2月末）

上小圏地域生活支援拠点（緊急ショートステイ）振り返り

輪番法人 質問事項	輪番月に限らず、利用者及びその家族等の緊急により、短期入所を受け入れたケース数	左記で、ケースを受け入れた緊急内容	虐待案件で緊急保護として、短期入所で受け入れたケース数	体験利用などの計画的な短期入所を受け入れたケース数	貴法人の相談支援専門員による、緊急受入調整により、短期入所利用を受け入れたケース数
ともいきライフ住吉	4 上記のうち輪番月1 相談支援専門員の調整2	介護者の体調不良（入院等）による受入（2件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（2件） ※法人内・法人外ケースの受入	0	7 法人内利用者	2件
第三上田ひもろ木園	2 上記のうち輪番月1 相談支援専門員の調整1	介護者の体調不良（入院等）による受入（1件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（1件）	0	0	1件 ※輪番月以外
ライフステージ かりがね	3 上記のうち輪番月1 相談支援専門員の調整2	介護者の体調不良（入院等）による受入（2件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（1件） ※ロングショートになってしまいう場合は、圏域内でも情報共有しないと、輪番月にショート枠が埋まってしまうことが想定される。	0	8 法人内外利用者	2件
上田悠生寮	0 上記のうち輪番月0 相談支援専門員の調整0	※受入調整の打診はあったが、利用には至らなかった。	0	8 法人内外利用者	0
山の子学園共同村	9 上記のうち輪番月4 相談支援専門員の調整0	介護者の体調不良（入院等）による受入（4件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（5件） ※輪番月は、法人外3件、法人内1件	0	7 法人内外利用者	9件
しいのみ療護園 （上田しいのみ園）	0 上記のうち輪番月0 相談支援専門員の調整0		0	0 定期的な利用者は カウント無	0

受総合計	18
輪番月受入合計	7
相談支援調整受入合計	14

## 事務局から

- ・ 行動障害も医療的ケア見者の受入体制が整わず難しい面があります。
- ・ 緊急の受入商会のケースが多いので、必要な勤務者をタイムリーに確保することが難しく、配置の不足を受け形でサビ管等の負担が総統に増してしまいますが、どこかに無理がかかることも致し方ない部分があり、今後も輪番月には事業所の責任を果たせるように取り組んで行きたいと考えております。
- ・ ロングでの利用を余儀なくされるケースについては、情報は上田市へ報告が入るが、圏域としては情報共有する機会を作って行く必要がある。

令和6年度中間報告（4月～2月末） 上小圏地域生活支援拠点（緊急シヨーストステイ）振り返り

輪番 法人	質問 事項	輪番月に限らず、利用者及びその家族等の緊急により、短期入所を受け入れたケース数	左記で、ケースを受け入れた緊急内容	虐待案件での緊急保護として受け入れたケース数	体験利用などの計画的な短期入所の受け入れたケース数	左記で、体験利用として受け入れた内容	貴法人の相談支援専門員による、緊急受入調整により、短期入所利用を受け入れたケース数
ともいきライフ 住吉	質問事項	5 上記のうち輪番月	左記で、ケースを受け入れた緊急内容  在宅から、介護者の体調不良（入院等）による受入れを、相談支援専門員が緊急調整（1件）  介護者の体調不良（入院等）による受入（2件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（2件）  在宅から、介護者の体調不良（入院等）による受入れを、相談支援専門員が緊急調整（1件） （以後、ロングSSとなった） 介護者の体調不良（入院等）による受入（1件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（1件）  在宅から、介護者の一時不調（レスパイト等）によるもの （1）在宅から、その他：地震が心配（1） 内、相談支援専門員が緊急調整  介護者の体調不良（入院等）による受入（2件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（1件）	0	17	左記で、体験利用として受け入れた内容  入所を目標とし体験利用するもの（7） 介護者の一時不在（法事等）によるもの（1） その他【ご家族の手術等における計画入院によるもの（2） 入所を目的としたもの（3件） 介護者のレスパイトを目的としたもの（3件） 介護者の一時不在によるもの（1件）	2件
		2 相談支援専門員の調整		0	1	在宅から、入所を目標とし体験利用（1）	2件
		2 上記のうち輪番月		0	17	在宅から、介護者のレスパイトを目的としたもの（6） 在宅から、介護者の一時不在（法事等）による（1） 入院・GHから、入所を目標とし体験利用するもの（1） 入所を目的としたもの（6件） 生活リハビリにて、GHの生活に戻るため（1件） 受け入れ先が見つからないため（1件）	5件
ライフステージ かりがね		5 上記のうち輪番月		0	15	入所を目標とし体験利用するもの（2） 介護者のレスパイトを目的としたもの（3） 介護者の一時不在（法事等）によるもの（1） 入院・GHから入所を目標とし体験利用するもの（1） 入所を目的としたもの（2件） 介護者のレスパイトを目的としたもの（3件） 介護者の一時不在によるもの（1件）	0
上田悠生寮	質問事項	1 上記のうち輪番月	虐待（その疑い）のため受入れを相談支援専門員が緊急調整	0	15	在宅から、入所を目標とし体験利用するもの（4） 在宅から、介護者の一時不在（法事等）によるもの（3） 在宅から、その他：体験利用（1）	14件
		1 相談支援専門員の調整		0	15	在宅から、入所を目標とし体験利用するもの（3） 在宅から、介護者の一時不在（法事等）によるもの（1） 在宅生活から、その他：一時車椅子生活の間（1） 内、相談支援専門員が緊急調整（5） 介護者の体調不良（入院等）による受入（4件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（5件）	14件
		0		0	0	0	0
山の子学園共同 村		14 上記のうち輪番月		0	15	在宅生活から、介護者の体調不良（入院等）による受入れ（3） 在宅生活から、介護者の一時不在（法事等）による受入れ（1） 在宅生活から、その他：一時車椅子生活の間（1） 内、相談支援専門員が緊急調整（5） 介護者の体調不良（入院等）による受入（4件） 介護者の一時不在（法事など）による受入（5件）	14件
しいのみ療護園 （上田しいのみ 園）	質問事項	5 上記のうち輪番月	虐待（その疑い）のため受入れを相談支援専門員が緊急調整	0	0	在宅から、入所を目標とし体験利用するもの（4件） 介護者のレスパイトを目的としたもの（4件）	1件
		1 相談支援専門員の調整		0	0	0	1件
		1 相談支援専門員の調整		0	0	0	1件
		受総合計					29
		輪番月受入合計					13
		相談支援調整受入合計					24

事務局から

- ・ 強度行動障害の方や精神疾患の方であると、ユニット環境もなく刺激の影響が大となり、不安定さを招いてしまうことも考えられます。
- ・ 基本は2泊3日の緊急対入れをいただく間に、次の受入れ先を探す対応となりますのですが、本人の行動特性などから受入れ先がなかなか見つからない事案が増加している傾向にあります（上田市）
- ・ 課題整理としては、個別事例でニーズも違い、事業所間や行政・基幹C等、会議の場も活用しながら、コミュニケーションを取りながら、対応方法や資源状況を調整することが重要。
- ・ 介護者の高齢化で、入院などによる緊急ケースが増加傾向にあり、資源状況とのバランスも今後見据えて実態把握する必要がある。
- ・ 行動障害も医療的ケア見者の受入体制が整わず難しい面があります。
- ・ 緊急の受入商会のケースが多いため、必要な勤務者をタイムリーに確保することが難しく、配置の不足を受けられる形でサビ管等の負担が増していますが、どこかに無理がかかることも致し方た無い部分があり、今後も輪番月には事業所の責任を果たせるように取り組んでいきたいと考えっております。
- ・ ロングでの利用を余儀なくされるケースについては、情報は上田市へ報告が入るが、圏域としては情報共有する機会を作っていく必要がある。



# 令和6年度の振り返り（圏域課題集約）

- ・ 強度行動障害の方や精神疾患の方であると、ユニット環境もななく刺激の影響が大となり、不安定さを招いてしまうことも考えられます。
- ・ 基本は2泊3日の緊急対入れをいただく間に、次の受入れ先を探す対応となるのですが、本人の行動特性などから受入れ先がなかなか見つかからない事案が増加している傾向にあります。
- ・ 課題整理としては、個別事例でニーズも違い、事業所間や行政・基幹C等、会議の場も活用しながら、コミュニケーションを取りながら、対応方法や資源状況を調整することが重要。
- ・ 介護者の高齢化で、入院などによる緊急ケースが増加傾向にあり、受け入れる社会資源状況とのバランスも今後見据えて実態把握する必要がある。
- ・ 行動障害も医療的ケア児者の受入体制が整わず難しい面があります。
- ・ 緊急の受入商会のケースが多いので、必要な勤務者をタイムリーに確保することが難しく、配置の不足を受ける形でサービス管理責任者等の負担が増していますが、どこかに無理がかかるとも致し方ない部分があり、今後も輪番月には事業所の責任を果たせるように取り組んで行きたいと考えております。（緊急時受入での支援体制を強化せざるを得ないケースは、勤務体制を厚くしたり、管理者が応援に入るなど等の実態がある。）
- ・ ロングでの利用を余儀なくされるケースについては、情報は上田市へ報告が入るが、圏域としては情報共有する機会を作って行く必要がある。

# 地域生活支援拠点登録事業者連絡会 (令和6年度の振り返り)

- ・ 相談支援事業所の相談支援専門員の専任化と複数化及び、共同連携による機能強化型相談支援事業所の指定に伴い、24時間の相談支援体制（地域生活支援拠点への登録）の推進が図れた。
- ・ 事前に短期入所などの対応が必要なケースの相談から、事前に体験利用などを済ませて、当日利用を調整する等、緊急時支援に至らず事前調整が図られた。本年も、介護者でのご両親などご家族の入院や手術等でのケースが増えて来っており、事前体験等の調整機能が今後重要となる傾向が高まっている。
- ・ 緊急時支援時にアセスメントされて、拠点登録台帳整備へのイメージを、相談支援と短期入所事業所とで働き掛けて行く必要がある。
- ・ 本年度は成果に至らなかったが、通所事業所や訪問系事業所の拠点登録の推進と理解を深めていくことを連絡会でも共有した。

地域生活支援拠点等の機能を担う事業所 認定事業所 一覧

No.	年度	担当メモ	開始年月日	事業所名
1	R6	施設入所	令和6年4月1日	ともいきライフ住吉
2	R6	施設入所	令和6年4月1日	障害者支援施設 上田悠生寮
3	R6	施設入所	令和6年4月1日	山の子学園共同村
4	R6	施設入所	令和6年4月1日	第三上田ひもろ木園
5	R6	施設入所	令和6年4月1日	しいのみ療護園
6	R6	施設入所	令和6年4月1日	ライフステージかりがね
7	R6	短期入所	令和6年9月1日	シヨーストステイ・ケアポータルみまき
10	R6	基幹相談	令和6年4月1日	上小地域障害者自立生活支援センター
11	R6	相談	令和6年4月1日	相談支援事業所 カナン
12	R6	相談(連携①)	令和6年4月1日	ヒューマンネットながの 相談センター上田 ヒューマンネットながの 児童相談センター上田
13	R6	相談(連携①)	令和6年4月1日	相談支援事業所GO!
14	R6	相談(連携①)	令和6年4月1日	ごきげんスペース相談室
15	R6	相談(連携①)	令和6年4月1日	クローエ相談支援室
16	R6	相談	令和7年3月1日	やすらぎ
17	R6	相談	令和6年4月1日	ピアサポートわっこ
18	R6	相談	令和6年4月1日	つつじ
19	R6	相談(連携②)	令和6年4月1日	相談支援センターみまき
20	R6	相談(連携②)	令和6年4月1日	笑明日
21	R6	相談(連携③)	令和6年10月11日	相談支援事業所ハレノヒ
22	R6	相談(連携③)	令和6年11月13日	相談支援事業所ハレノヒ
23	R6	相談(連携③)	令和6年10月1日	相談支援事業所あゆみ
24	R6	相談(連携③)	令和6年4月1日	相談支援事業所とらいあんぐる
25	R6	相談(連携④)	令和6年11月26日	ムネマル相談支援センター
26	R6	相談(連携④)	令和6年11月13日	相談支援事業所momo et fuku
27	R6	相談(連携④)	令和6年11月13日	相談支援事業所せせらぎ
28	R6	相談(連携④)	令和6年11月30日	Roji

令和7年度 上小圏地域生活支援拠点に関する緊急シヨーストステイ事業 (スケジュール)

	令和7年度			
	輪番表	身体・医ケア対応	運営委員会ほか	
4月	りんどうの会	上田しいのみ会	委託契約の締結 (4/1)	
5月	かりがね福祉会	上田しいのみ会	プロジェクト委員会 予定: 5月23日 (金) 午 前	
6月	りんどう信濃会	上田しいのみ会		
7月	縦の木福祉会	上田しいのみ会		
8月	上田明照会	上田しいのみ会		
9月	みまき福祉会	上田しいのみ会	※新規開始 みまき福祉会	
10月	りんどうの会	上田しいのみ会	プロジェクト委員会 (令和7年度の上半期検証)	
11月	かりがね福祉会	上田しいのみ会		
12月	りんどう信濃会	上田しいのみ会		
1月	縦の木福祉会	上田しいのみ会		
2月	上田明照会	上田しいのみ会		
3月	みまき福祉会	上田しいのみ会	プロジェクト委員会 (令和7年度の検証と次年度計画) 翌年度契約に向けての事務取扱い (中下旬)	

令和6年度

## 強度行動障害支援体制整備検討委員会 年度報告

テーマ	1 第7期障害福祉計画/第3期障害児福祉計画の進捗管理 2 上小圏域の強度行動障害児者実態調査の集約 3 強度行動障害児者のニーズ把握 4 強度行動障害児者の支援体制整備に向けた検討
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	■ 強度行動障がい者を有する障がい児者のニーズ実態を把握し、支援体制の強化に向けた協議を進めます。

## ■活動予定 ※上田市全体会

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局 会議	委員会		委員会		委員会			委員会		委員会	

## ■活動内容（別紙：上小圏域強度行動障害実態調査報告）

開催月	活動概要
上田市 5月1日	委員会の立ち上げ準備検討（事業計画・検討委員の選定・実態調査方法と様式） 場所：上田市役所
第2回 5月14日	上小圏域の実態調査方法の検討 ※運営委員会内での事業計画案の検討 場所：上田市ふれあい福祉センター
第3回 5月29日	上小圏域の実態調査と支援課題のヒアリングに向けての依頼 ※上小地域施設連絡協議会 代表者会議での調査実施依頼と説明 場所：オンライン
第4回 7月19日	障がい福祉計画推進に基づく、強度行動障害児者実態調査について 場所：上田市ふれあい福祉センター
第5回 9月27日	第52回 上小圏域障がい者自立支援協議会への報告整理 上小圏域の実態調査の集計結果と本会報告内容の検討 事業所アンケート調査及びヒアリング調査に向けた検討 場所：上田市ふれあい福祉センター
第6回 12月～3月	重点施策等のニーズ把握（事業所アンケート・ヒアリング調査）の実施 12月までの事業所アンケートを集計し、2月～3月でヒアリングと検証を実施 場所：上田市ふれあい福祉センター
第7回 2月21日	重点施策等の本年度最終報告に向けて実施 運営委員会へアンケート集計及び一部のヒアリング内容を報告 第53回協議会本会には、最終報告書の提出を予定 （市町村には集計内容を事前報告予定） 場所：上田市ふれあい福祉センター
適時	運営委員会内での情報共有と検討
日程未定	1. 上小地域施設連絡協議会代表者会議等の開催に合わせて情報提供・情報共有 2. 支援事業所アンケート並びにヒアリング（下半期予定）

## ■考察・来年度に向けて

年度前半は、障害支援区分や加算スコアを活用して、強度行動障害児者の実態調査（人数及び区分など）を10月の協議会本会に報告済み。

集計データを基に支援機関（生活介護・入所施設・行動援護・重度包括支援・放課後デイサービス）に事業所アンケート調査を実施して集計した。その上で、事業者へヒアリングを実施し、ニーズ分析を実施し、3月の協議会本会報告とした。

本年度は、調査による実態把握とニーズ把握に努め、次年度は支援機関との本格的な検討を年度前半に進めて、圏域としての社会資源の開発やニーズに基づく支援体制整備を次年度推進に向けて本格的検討を予定したいと考えている。

## ■参加機関

行政機関	上田市障がい者支援課 係長 担当者 上田市丸子地域自治センター市民サービス課 担当職員 上田市真田地域自治センター市民サービス課 担当職員 上田市武石地域自治センター市民サービス課 担当者 東御市福祉課 担当職員 東御市こども家庭支援課 担当職員 長和町町民福祉課 担当職員 青木村住民福祉課 担当職員
協力委員	上小圏域内施設（強度行動障害支援施設関係者） 入所施設・生活介護施設・重度障害者包括支援事業所・行動援護事業所 居宅介護事業所・共同生活援助（日中支援型事業所など） 移動支援事業所 上小圏域強度行動障害専門チームなど
委員長	長野県上田保健福祉事務所 福祉課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター 所長 地域生活支援拠点コーディネーター

# 事業所アンケート/ヒアリングから見える 上小圏域の強度行動障害児者のニーズ調査報告

～令和7年度の本格的検討に向けて～



上小圏域障がい者自立支援協議会  
強度行動障がい支援体制整備検討委員会



## 1) 生活する場所での課題整理

環境や生活スケジュールの構造化により落ち着いて生活できる



親の高齢化から、契約利用されている利用者全てを居住サービスを受け入れることは難しい

(緊急時・数年後のグループホーム施設入所ニーズを確認していく必要性を確認)

施設外への飛び出し対応(建物内のセキュリティ・敷地外との境のセキュリティ)

クールダウン(刺激の無い)環境の整備・建物増設資金確保

個別支援(活動)スペースの確保

所在確認方法の確保

支援者配置基準を超える人件費の確保(人材確保と共に)

短期入所利用者への個室確保の整備(ニーズに答えられない)

強度行動障がい支援スキルの高い支援者の人件費の上乗せ

圏域内での社会資源不足

他利用者の権利保障(暴力・奇声からの新たな支援環境の増設)

医療連携+支援環境の整備

二次障害による行動特性に合わせた社会資源の受け皿作り以前の支援環境の整備



## 2) 身の回りの介護の課題整理

こだわり行動から日用品の大量消費

個別支援量の多さから通所サービス内での支援の限界

移動時の安全確保体制

公的財源を投入した社会資源の創設

バリアフリー施設環境・自家輸送車両バリアフリー化等（本人に合わせた改修・車両導入補助）

自宅で行えない入浴（衛生）支援環境の拡大



## 3) 活動支援に関する課題整理

コミュニケーション支援力の向上に向けた支援スキルを獲得できる学習の場（研修に出られる時間の確保不足）

他法人連携による支援体制の構築

アセスメント体制の事業所単位を超えた仕組みの導入（アドバイザー体制）

家族ニーズと本人理解が得られない緊急時支援対応の検討

小規模事業所でも支援できる運営補助

事業所毎、支援者不足の解消を図れるための検討

ハード面とマンパワー量を見越した支援調整の仕組みが欲しい

支援時間全て個別支援の継続は、行動援護サービス体制の確保でないと通所支援は難しい

破壊行為へのハード面の改修制度が無いと、傷害保険でも繰り返しの保険請求は出来ない。





## 4) 健康面への支援に関する課題整理



行動障害のある利用者の家族だけの通院支援の限界もあり、通所支援で慣れている支援者の応援支援の給付の仕組みが欲しい

検診・歯科受診・通院課題への支援ニーズが大きい



## 5) 支援に係る経済的な課題整理

行動障がい者の公的な支援場所の確保等の応援が市町村からも欲しい  
(賃貸物件・近隣理解など、物件探しのハードルが高い)

物価高騰による事業所支援の仕組みを、圏域でも検討して欲しい

ICT化の導入にも、事業所補助が必要

行動障がい者の通所支援等の通園補助制度は、個別支援が必要な利用者には制度上改正が必要と思われる

(個別での移送支援では、福祉運送輸送など自家輸送の仕組みではなく本人負担が大きい)





## 6) 安全面配慮や権利擁護に関する課題整理



他者への所持品破損や安全対策への事業所負担が大きい

危険回避への個別支援・複数支援体制などマンパワー不足が課題

意思決定支援には、支援力と同時に支援体制を厚くしなければならない

## 7) その他の課題の整理



緊急ショートステイの予算編成の検討：実績に応じて加算していくシステム（予算編成の検討）

緊急ショートステイ受入後の支援実績：アセスメント、課題、成功例など共有の仕組み作り

安全環境整備への事業所補助

アセスメント力向上のための共有システムと研修ツールの開発

国の現在の制度への改善依頼

在宅診療体制の整備

行動障がい児者への宿泊型サービスの整備



支援機関と家族の意向との調整の困難性について圏域内で共有化できる仕組みが欲しい

【放課後等デイサービスにおいて、強度行動障がいに対するの支援の充実に向けて】

早期療育・二次障害防止等の観点から、圏域でも応援してほしいことの抜粋



支援が始まって相談支援専門員が支援の様子を事業所に来て確認することがとても少ない。支援が始まる前のお子さんや保護者のアセスメントを行うこと、後方支援としての関わりが無いと事業所は苦しい。

事業所と保護者、相談支援、行政などがチームとして、その子の支援を支える体制が欲しい。相談支援専門員が事業所に足を運ぶことや、それに対しての加算などがあると良いと考える。

個別サポート加算の評価で、保護者と事業所の捉え方に乖離がみられる。また、強度行動障がいの対応では、専門性の高い支援が必要なことを理解してもらえる仕組みが欲しい。

事前に強度行動障がいと伝えられているお子さんと、そうではないが支援を始めると対応に困難なお子さんがある。事業所では1対1での支援を行っていることを保護者にも理解を深めて行きたい。

地域生活支援事業の移動支援や日中一時支援などの単価が低いので、社会資源として活用できるように人の確保ができないことから行動援護と同等の給付を検討してほしい。また、放デイでも1対1での支援には加算が必要と思う。

送迎時に、障がい特性からトラブルになるお子さんは分けて送迎するが、そのためにルートが長くなることや、車両が多く必要になってしまう。（効率より対応を優先せざるを得ない。）

他害のあるお子さん是对応する職員のスキルもあると思うが、お子さんの想いや気持ちを汲みとれないことやそうした環境を整えることが難しい。

家庭では保護者の疲弊や兄弟や家族に手が出るなどして、ケガが絶えないケースもあるが、支援者として本人の訴えを理解してあげられない苦しさがある。

卒業後の進路として生活介護が受け皿になっているが、自由時間を過ごすスキル獲得に向けた支援がゆるく、強度行動障がいや発達障がいのお子さんたちは、見通しが持てずに何をしても良いかわからないことが多い。

（作業時間と休憩時間などの枠組みがはっきりとした環境がむしろ落ち着いた方もいる。進路先を生活介護だけで考えるのではなく、本人の状態やどんな枠組みの支援が必要かを大切にしたい。）



## まとめ（次年度の検討テーマの整理）

### （圏域内全体テーマ）

- ・居住サービスニーズ把握と資源開発  
（緊急時・数年後のグループホーム施設入所ニーズ）

### （事業所支援環境への応援）

- ・安全管理対策：建物内のセキュリティ・敷地外との境のセキュリティ環境の整備への応援
- ・個別支援環境の整備（短期入所の個室確包含む）  
建物増設支援に向けた応援
- ・配置基準を超える人件費の確保への応援（個別支援加算・意思決定支援加算・安全管理加算）
- ・小規模事業所でも支援できる運営補助／ICT化に向けた事業所の応援

### （家族支援への応援）

- ・支援スキルの高い支援者の人件費の上乗せ的な応援
- ・入浴（衛生）支援環境の拡大に向けた取り組み
- ・検診・受診支援体制の検討
- ・通園補助制度の見直し（家族送迎 対象者）

### （送迎支援環境への応援）

- ・送迎車両（個別送迎対応者への送迎車両確保）
- ・移動時の安全確保体制（個別支援者対応加算）

### （直接支援者のスキル獲得への応援）

- ・研修に出られる時間の確保不足
- ・圏域でのアセスメント体制整備  
（法人枠を超えた受入実践の蓄積と共有システム）
- ・アドバイザー体制（広域的専門職の育成と導入）

### （その他の応援）

- ・公的財源を投入した社会資源の創設  
（支援場所の確保に向けた公的な応援）
- ・強度同行障がい児者への在宅診療体制の整備

協力事業所の皆様  
ご協力ありがとうございました。

### 放課後デイサービス事業所

NPO法人 シャイン                      アオ                      キッズ笑明日  
クロスロードあおき                      チャンス上田校  
こどもプラス上田教室                      たんとキッズあおき  
ミライエ                                      らいおんハート

### 生活介護事業所（入所施設含む）

OIDEYOハウス                      アトリエFUU                      風の工房                      ライフステージかりがね  
ともいきライフ慈光                      ともいきライフ和順                      ともいきライフ住吉  
笑明日                      ひまわりの丘                      ぽけっと                      上田悠生寮  
上田ひもろ木園                      山の子学園共同村

令和6年度

# 権利擁護委員会(虐待・権利) 年度報告

テーマ	1 「障がい者虐待の防止、障がい者の養護者に対する支援に関する法律(障がい者虐待防止法)」圏域内研修の企画・運営 2 上小圏域内虐待案件の検証の実施 3 事業所内虐待防止研修の推進
地域共生社会作りを目指して	■ 障害者虐待防止法及び障害者差別解消法の周知 ■ インクルージョンの推進

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	委員会	研修			委員会				委員会	委員会	

## ■活動内容

月	活動概要
第1回 5月14日	1. 年度計画の確認 2. 圏域内障がい者虐待防止センター等虐待防止・権利擁護合同研修について 場所：上田市ふれあい福祉センター2階 市民ホール
研修 6月25日 28日	圏域内障がい者虐待防止センター等虐待防止・権利擁護合同研修 <b>【参加者】</b> 市町村虐待防止センター職員、上田保健福祉事務所福祉課担当職員、上小圏域成年後見センター担当職員、就業・生活支援センター職員、基幹相談支援センター職員 <b>【日時/場所/参加人数(委員含む)】</b> 25日/東御市総合福祉センター2階 201,202 研修室(14:00~16:00)/23名 28日/丸子地域自治センター4階 講堂(15:00~17:00)/21名 <b>【内容】</b> 事前学習：令和6年度長野県障がい者支援課による障害者虐待防止センター初任者研修資料の読み込み、障害者虐待防止法の概要に関する研修資料の動画の視聴 当日：事例を通してのグループワーク
第2回 9月27日	1. 圏域内障がい者虐待防止センター等虐待防止・権利擁護合同研修の振り返りと次年度に向けて 2. 障がい者虐待対応フロー図について 3. 虐待検証シートの改正に向けて 4. 地域移行等意向確認者ネットワーク会議構築に向けて 場所：上田市ふれあい福祉センター2階 市民ホール
第3回 1月28日	・県自立支援協議会権利擁護部会事務局田中氏をアドバイザーに迎え、圏域内虐待案件についての検証を実施。 1. 障がい者虐待に関する全国的な傾向と県内の対応状況について 田中氏より令和5年度の全国及び長野県の虐待対応調査について説明 2. 事例検証 上田市：3件、東御市：1件、青木村：1件

障がい者虐待通報に関する状況【圏域全体】（R5年度・R6年度 比較）

虐待種別	R5年度		R6年度	
	件数	%	件数	%
養護者虐待	10	42%	8	53%
従事者虐待	10	42%	5	33%
使用者虐待	4	17%	2	13%
<b>合計</b>	<b>24</b>	<b>100%</b>	<b>15</b>	<b>100%</b>

被虐待者主障害	件数		%	
	件数	%	件数	%
知的	13	48%	7	47%
身体	2	7%	2	13%
精神	9	33%	6	40%
発達	0	0%	0	0%
高次脳	0	0%	0	0%
不明	3	11%	0	0%
<b>合計</b>	<b>27</b>	<b>100%</b>	<b>15</b>	<b>100%</b>

※ 重複あり

虐待状況	件数		%	
	件数	%	件数	%
身体的虐待	9	33%	8	40%
性的虐待	0	0%	2	10%
心理的虐待	11	41%	7	35%
ネグレクト	4	15%	1	5%
経済的虐待	3	11%	2	10%
<b>合計</b>	<b>27</b>	<b>100%</b>	<b>20</b>	<b>100%</b>

※ 重複あり

通報届出者	R5年度		R6年度	
	件数	%	件数	%
本人	3	12%	2	13%
家族（同居）	1	4%	0	0%
家族（別居）	1	4%	0	0%
近隣住民	0	0%	0	0%
民生・児童委員	0	0%	0	0%
相談支援事業所	4	16%	3	19%
障害福祉サービス事業所	3	12%	2	13%
教育関係	0	0%	0	0%
職場	0	0%	0	0%
医療機関	2	8%	2	13%
警察	4	16%	2	13%
行政機関			4	25%
その他	7	28%	1	6%
<b>合計</b>	<b>25</b>	<b>100%</b>	<b>16</b>	<b>100%</b>

※ 重複あり

（その他内訳）

R5年度	長野労働局	3
	匿名	2
	元職員	1
R6年度	長野県障がい者支援課	1
	社会福祉協議会	1

被虐待者性別	R5年度		R6年度	
	件数	%	件数	%
男性	8	33%	4	27%
女性	13	54%	10	67%
不明	3	13%	1	7%
<b>合計</b>	<b>24</b>	<b>100%</b>	<b>15</b>	<b>100%</b>

被虐待者年齢	件数		%	
	件数	%	件数	%
10代	1	4%	0	0%
20代	0	0%	1	7%
30代	2	8%	5	33%
40代	6	25%	1	7%
50代	8	33%	5	33%
60代	3	13%	2	13%
不明	4	17%	1	7%
<b>合計</b>	<b>24</b>	<b>100%</b>	<b>15</b>	<b>100%</b>

・全体通報数 令和5年度より9件減少  
 ・主障害は知的/精神の重複が多い  
 （例年同様及び全国的な傾向と重なる）  
 ・虐待状況も全国的な傾向と重なり、身体的虐待及び心理的虐待が多い。  
 ・通報先がサービス提供事業所・相談支援専門員が昨年と同等に多く、今年度は行政機関が昨年度の倍となっている。

	3. 虐待認定しなかったケースについて 上田市：9件  場所：上田市ふれあい福祉センター3階 訓練室
第4回 2月21日	1. 圏域内虐待案件の検証振り返り 2. 次年度に向けての意見交換  場所：上田市ふれあい福祉センター2階 市民ホール

#### ■考察・来年度に向けて

- ・圏域内研修の企画・運営については、昨年度の意見を踏まえて業務時間内に実施としたが、例年と比較し、当日の欠席者や早退・遅刻者が多かった。本来全職員参加研修として実施してきたものであるが、コロナ禍を経て研修の目的等が薄れてきていると感じており、目的や必要性の再確認が必要である。
- ・虐待案件の検証については、今年度は委員からの意見を元に事例検証シート書式の変更を行い、新たなシートを使用して検証を行った。実際の事例を通して意見交換ができる貴重な機会であるため、来年度以降検証の実施方法や参加者の検討を行い、更に充実した検証となるようにしたい。また、圏域内の相談通報の傾向も見えるものであるため、検証時の虐待対応についての振り返りや課題などから次年度の圏域内研修の内容を考えていきたい。

#### ■参加機関

行政機関	上田市障がい者虐待防止センター本庁・真田・丸子・武石 (上田市真田市民サービス課 係長) (上田市障がい者支援課 係長) (上田市丸子市民サービス課 係長) (上田市武石市民サービス課 係長) 東御市障がい者虐待防止センター (東御市福祉課 福祉係長) 長和町障がい者虐待防止センター (長和町町民福祉課 福祉係長) 青木村障害者虐待防止センター (青木村住民福祉課 福祉係長) 上田保健福祉事務所福祉課福祉係長
福祉関係機関	上小圏域成年後見センター
委員長	真田地域自治センター市民サービス課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター

令和6年度

# 権利擁護委員会(差別解消) 年度報告

テーマ	1 MOSH!(モッシュ)企画・運営 2 関係機関・団体の差別解消についての普及・啓発活動への協力
地域共生社会作りを目指して	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■障害者虐待防止法及び障害者差別解消法の周知</li> <li>■インクルージョンの推進</li> </ul>

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	委員会				委員会		MOSH!			委員会	

## ■活動内容

月	活動概要
第1回 5月14日	年度計画の確認 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
普及啓発 7月12日	◇テーマ：「障がいは何？～障がいの“社会モデル”の考え方～」 体験演習① 手話講座 体験演習② 伝言ゲーム ◇参加者：約30名（上田市真田地区民生委員・児童委員協議会） 場所：真田地域自治センター3F 講堂
普及啓発 7月25日	◇テーマ：「障がいは何？～障がいの“社会モデル”の考え方～」 体験演習 手話講座 ◇参加者：約100名（上田市民生委員・児童委員協議会 障がい者福祉部会） 場所：上田文化会館ホール
9月12日	福祉教育(上田市社協出前講座)とMOSH!について打合せ 場所：上田市ふれあい福祉センター1F ロビー
第2回 9月27日	MOSH!実施について進捗確認 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
MOSH! 11月	(仮)『みんなが過ごしやすい学校を考える』 場所：未定
12月	MOSH! 振り返り 場所：上田ふれあい福祉センター2F 市民ホール
第3回 2月21日	今年度の振り返り 次年度に向けて意見交換 場所：上田ふれあい福祉センター2F 市民ホール

◇年間通して必要な差別解消についての普及・啓発は随時実施していく

## ■考察・来年度に向けて

1. MOSH!については上田市社会福祉協会と協同して実施を予定していたが、今年度は学校や企業などからオーダーが無く年度終了を迎えてしまった。学校は独自で地域の障がい者の方を招き、学習する機会を設けるなど福祉教育が行われている。次年度に向け、事業の周知や広報を進めていきたい。
2. 関係機関や団体への差別解消についての普及・啓発については、2024年4月1日施行した事業者による障がい者への合理的配慮の提供が義務化されたことを受け、圏域内の工場・企業等にチラシを配布し周知した。また、団体への差別解消についての学習会では、参加者から「一方的な講義ではなく、手話やロールプレイ、疑似体験を含めることで理解が深めることができた。」といった感想や意見をいただいた。来年度も継続して活動をしていきたい。

## ■参加機関

行政機関	上田市障がい者虐待防止センター本庁・真田・丸子・武石 (上田市真田市民サービス課 係長) (上田市障がい者支援課 係長) (上田市丸子市民サービス課 係長) (上田市武石市民サービス課 係長) 東御市障がい者虐待防止センター (東御市福祉課 福祉係長) 長和町障がい者虐待防止センター (長和町町民福祉課 福祉係長) 青木村障害者虐待防止センター (青木村住民福祉課 福祉係長) 上田保健福祉事務所福祉課福祉係長
福祉関係機関	上小圏域成年後見センター 上田市社会福祉協議会
委員長	真田地域自治センター市民サービス課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター



令和6年4月～令和7年2月

障害を理由とする差別の禁止に関する報告

市町村	上田市
-----	-----

1 相談件数 

3
---

 件

2 相談者の障がい種別（重複あり）

視覚障がい	聴覚障害	盲ろう	肢体不自由	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難病	その他
					3			

3 相談者の状況

個人	3
----	---

団体	
----	--

4 相談内容

不当な差別的扱い	2
----------	---

合理的配慮の不提供	1
-----------	---

令和6年度

## 地域生活移行専門部会 年度報告

テーマ	1 地域生活支援体制整備に関する取り組み（実践事例検討） 2 精神障がい者ピアサポートに関する取り組み（ピアサポートのスキルアップ） 3 居住確保に関する取り組み（多職種連携の推進）
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	■地域移行支援体制の強化に向けて、ピアサポーターの活動や医療機関との連携を図ります。

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	ピア	部会	事例	ピア	部会	ピア	居住	事例 ピア	ピア	部会	
			ピア…ピアの集い（研修含む）			事例…事例検討			居住…居住確保		

## ■活動内容

開催月	活動概要
5月20日	精神障がい者ピアサポートに関する取り組み 第1回上小ピアサポートの会こもれびの集い 参加者) メンバー7名、関係者2名、事務局5名 内容) 近況報告、今年度の活動について など 場所：上田合同庁舎6階講堂
第1回 6月10日	今年度の計画について 1. 地域生活支援体制整備に関する取り組み 2. 精神障がい者ピアサポートに関する取り組み 3. 居住確保に関する取り組み 場所：上田合同庁舎南棟
6月24日	居住確保に関する取り組み 参加者) 長野県宅地建物取引業協会上田支部 理事3名 部会長、事務局2名 内容) 合同勉強会へ向けての話し合い 場所：長野県宅地建物取引業協会上田支部本部
7月1日	地域生活支援体制整備に関する取り組み 参加者) 23名（行政、 <u>医療機関*</u> 、一般相談支援事業所、障がい者事業所、部会員 *医療機関には <u>退院後生活環境相談員</u> も含む） 内容) 入退院を繰り返しながら地域生活を送る精神障がい者の事例検討 事例提供者 基幹相談支援センター（事務局） 場所：上田合同庁舎6階講堂
7月2日	居住確保に関する取り組み 参加者) 全日本不動産協会長野県本部上小地区 代表1名 事務局 1名 内容) 合同勉強会へ向けての話し合い 場所：全日本不動産協会長野県本部上小地区
7月12日	精神障がい者ピアサポートに関する取り組み 長野大学 障がい者福祉講義 発表者) 勝見 和幸 氏（上小ピアサポートの会こもれび） 金井 秋雄 氏（メンタルサポートそよかぜ病院デイケア）

	<p>参加者) 長野大学社会福祉学部社会福祉学科 相馬大祐准教授  長野大学社会福祉学部社会福祉学科 学生 100 名  メンタルサポートそよかぜ病院 職員 3 名  長野大学 職員 1 名  事務局 2 名</p> <p>内容) 体験談の発表、質疑応答 など</p> <p style="text-align: right;">場所: 長野大学</p>
8 月 19 日	<p>精神障がい者ピアサポートに関する取り組み  第 2 回上小ピアサポートの会こもれびの集い</p> <p>参加者) カンパピアスタッフ 3 名、メンバー 5 名、関係者 2 名、事務局 4 名、実習生 1 名  内容) 地域活動支援センターカナン見学、交流 など</p> <p style="text-align: right;">場所: 地域活動支援センターカナン</p>
第 2 回 9 月 9 日	<p>1. 地域生活支援体制整備に関する取り組み (事例の振り返りと次回へ向けて)  2. 精神障がい者ピアサポートに関する取り組み (集いの報告および研修会について)  3. 居住確保に関する取り組み (合同勉強会に向けて)</p> <p style="text-align: right;">場所: 上田合同庁舎南棟</p>
10 月 21 日	<p>精神障がい者ピアサポートに関する取り組み  第 3 回上小ピアサポートの会こもれびの集い</p> <p>参加者) メンバー 6 名、関係者 3 名、事務局 4 名  内容) 活動報告、ピアサポートスキルアップ研修について など</p> <p style="text-align: right;">場所: 上田合同庁舎 6 階講堂</p>
11 月 11 日	<p>居住確保に関する取り組み 居住関係者との勉強会  共催: 上田保健福祉事務所および長野県宅地建物取引業協会上田支部  参加者) 40 名 (長野県宅地建物取引業協会上田支部、全日本不動産協会長野県本部上小地区、県および市町村公営住宅担当者、施設連絡協議会、長野県上田建設事務所、精神科病院、指定一般相談支援事業所、部会員)</p> <p>内容) ・入居保証、生活支援事業について など  長野県社会福祉協議会 相談事業支援センター 清水 瑞樹 氏  上田市社会福祉協議会 上田市生活就労支援センター  まいさぼ上田所長 内山 聡也 氏</p> <p>・意見交換 (グループワーク)</p> <p style="text-align: right;">場所: 上田合同庁舎 6 階講堂</p>
12 月 9 日	<p>地域生活支援体制整備に関する取り組み  参加者) 25 名 (行政、医療機関*、一般相談支援事業所、障がい者事業所、部会員  *医療機関には退院後生活環境相談員も含む)</p> <p>内容) 入退院を繰り返しながら地域生活を送る精神障がい者の事例検討  事例提供者 丸子地域自治センター 市民サービス課 (部会員)</p> <p style="text-align: right;">場所: 上田合同庁舎 6 階講堂</p>
12 月 16 日	<p>精神障がい者ピアサポートに関する取り組み ピアサポートスキルアップ研修  共催: 上田保健福祉事務所  参加者) 45 名 (当事者、行政機関、医療機関、一般相談支援事業所、障がい者支援事業所、部会員など佐久圏域からの参加者も含む)</p> <p>内容) ・ピアサポートによる体験談  上小ピアサポートの会こもれび 勝見 和幸 氏  ・講演『ピアサポートの実践について 南信での取り組みなど』  NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ 若者の居場所「おるら」スタッフ</p>

	<p>長野県ピアサポートネットワーク会員          当事者団体「ピア南信しあわせの種」等メンバー 高橋 泰宏 氏          ・意見交換 など</p> <p style="text-align: right;">場所：上田合同庁舎 6 階講堂</p>
1 月 20 日	<p>精神障がい者ピアサポートに関する取り組み          第 4 回上小ピアサポートの会こもれびの集い          参加者) メンバー 6 名、関係者 1 名、事務局 5 名          内容) 活動報告、ピアサポートスキルアップ研修の振り返り、          来年度の活動について など</p> <p style="text-align: right;">場所：上田合同庁舎 6 階講堂</p>
第 3 回 2 月 10 日	<p>活動報告および今年度の振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域生活支援体制整備に関する取り組み（事例の振り返りと来年度へ向けて）</li> <li>2. 精神障がい者ピアサポートに関する取り組み              （集いおよび研修の報告および振り返り、来年度へ向けて）</li> <li>3. 居住確保に関する取り組み（合同勉強会の振り返りと来年度へ向けて）</li> </ol> <p style="text-align: right;">場所：上田合同庁舎南棟</p>
2 月 12 日	<p>居住確保に関する取り組み          参加者) 長野県宅地建物取引業協会上田支部 理事 3 名          部会長、事務局 2 名          内容) 合同勉強会の振り返りと、来年度へ向けて</p> <p style="text-align: right;">場所：長野県宅地建物取引業協会上田支部本部</p>
2 月 12 日	<p>居住確保に関する取り組み          参加者) 全日本不動産協会長野県本部上小地区 代表 1 名 事務局 1 名          内容) 合同勉強会の振り返りと、来年度へ向けて</p> <p style="text-align: right;">場所：全日本不動産協会長野県本部上小地区</p>

## ■考察・来年度に向けて

1. 地域生活支援体制整備に関する取り組み（実践事例検討）では、2 回の事例検討を行った。事務局と部会員からの事例提出とした。事例の共有や事例提出者への共感が高かった。相談支援専門員が検討会を引っ張って行っていただき、日頃人材育成部会による機能強化の GSV や相談支援実施教育 0JT 体制整備事業の実績の成果だと思われる。また、積極的にご参加いただいた精神科病院の退院後生活環境相談員からは、「楽しかった。他職種との事例検討が新鮮であった。病院からも事例を出したい」という意見が出された。次年度は精神科病院へもアプローチし、事例提出も検討したい。
2. 精神障がい者ピアサポートに関する取り組み（ピアサポートのスキルアップ）では、上小ピアサポートの会こもれびメンバーより、もっと勉強したいとの意見を受け、ピアサポートのスキルアップ研修を行った。こもれびからも体験談を話す機会を作り、こもれびの存在を周知する良い機会となった。また、参加していただいたピアの方からは、居場所が欲しい希望がでていたが、地域活動支援センターの存在をあまり知られていない可能性もあり、周知が必要と思われる。ピアの活動については、引き続き、細く長く続けられるよう取り組んでいきたい。
3. 居住確保に関する取り組み（多職種連携の推進）では、R3 年度実施の住宅関係者へのアンケート調査から、顔を合わせた勉強会を継続し実施できている。参加者の目的はそれぞれではあるが、普段かかわりの少ない住宅関係者と顔を合わせた話し合いは、今回も有意義な時間となった。今回の勉強会に出席いただけていない住宅関係者からは、精神障がい者に対する差別的な発言があり、県

へ伝えさせてもらっている。

全体として、啓発活動も視野に入れているため、部会の取り組みを通して、精神障がい者に対する理解の促進も図っていきたい。

#### ■参加機関

福祉事業所	相談支援事業所相談支援専門員（指定特定相談支援事業所、指定一般相談支援事業所） 福祉サービス事業所職員
医療機関	精神科病院精神保健福祉士、退院後生活環境相談員
当事者団体	精神障がい者家族会
行政機関	上小圏域内 市町村（保健）福祉関係課担当者 上田保健福祉事務所福祉課担当者、健康づくり支援課担当者
その他・テーマに応じたの参加者	長野県宅地建物取引業協会、県および市町村公営住宅住宅課、全日本不動産協会、 上小地区障がい者施設連絡協議会、上田市生活就労支援センター、 上小ピアサポートの会こもれび など
委員長	長和町町民福祉課 係長
事務局	長野県上田保健福祉事務所健康づくり支援課 上小圏域基幹相談支援センター

## 第1回事例検討会アンケート 結果

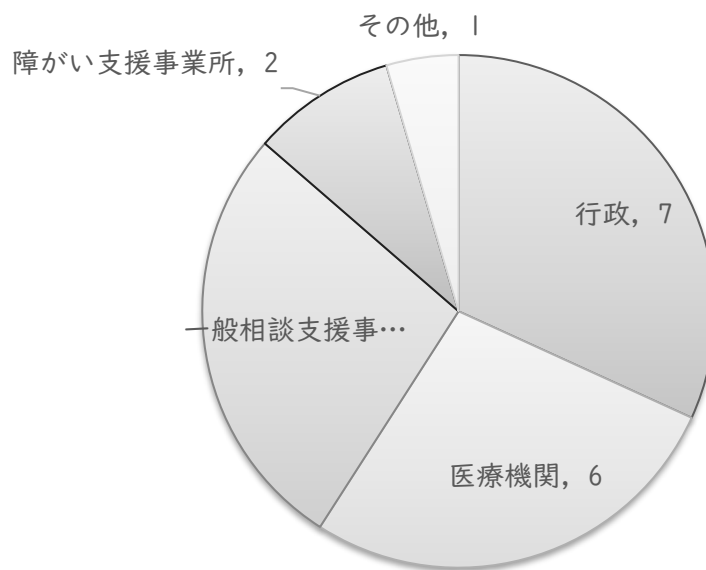
令和6年7月1日  
長野県上田合同庁舎 6階講堂

\*事例提出者 基幹相談支援センター

事例内容 入退院を繰り返しながら、地域で生活する精神障がい者が、  
近隣者と上手く付き合っていくためには？

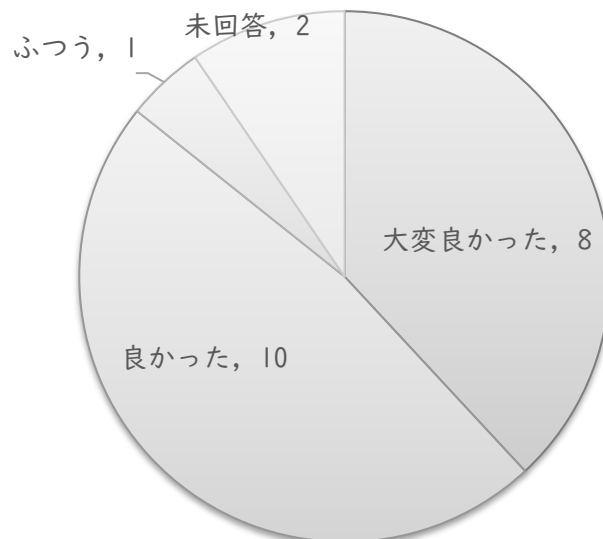
### 1. 所属

ア、行政（福祉、保健）7名    イ、医療機関6名    ウ、一般相談支援事業所6名  
エ、障害者支援事業所2名    オ、その他（家族会）1名（1名2ヶ所あり）



### 2. 事例検討会について

ア、大変良かった8名    イ、良かった10名    ウ、ふつう1名  
エ、あまり良くなかった0名    オ、未回答2名



## 意見・感想等 抜粋

- ・地域で暮らすというテーマで、ご本人の病状への支援だけでなく、同時に地域へのアプローチも必要という部分がよく分かりました。多くのつながりを作る支援を心掛けたいと思います。
- ・本人の希望を支援していくことと、近所から苦情が来ているものについてご自身でも考えを改めていく、マナーを持ってもらう事の必要性を思いました。地域で住み続けることは思っているより大変なことだなと思いました。
- ・地域で生活していく上で、地域の住民の方の理解を得ていくことの難しさがよく分かりました。同時に支援者の方々の努力や工夫がとても伝わる事例でした。本人の強みを生かしながら、1つ1つ課題をクリアしていくことが大事だと思います。
- ・参加者がなれていなかった感があった。
- ・多職種での事例検討ができ、様々なアイデアがでて良かった。
- ・様々な職種が集まって検討できる機会に参加できることは、自己研鑽にもなるため、地域にとっても、各専門職個人にとっても有意義だと思います。
- ・地域、行政、病院がバランスよく配置されていて、それぞれの方面からの意見を聞くことができ勉強になりました。地域で、家で生活したいという希望を尊重しつつ、それであれば本人にはどこをどのように頑張ってもらえるのかなど一緒に検討していくことの大切さを感じました。

### **3. 事例検討会で取り上げて欲しいこと、要望** 抜粋

- ・高齢の親と障害を持つ子との2人暮らしなど、親亡き後をどう考えるか？というケース
- ・病院内での困難事例を知りたい

### **4. その他** 抜粋

- ・地域代表の意見も聞いてみたい（民生委員など）
- ・地域生活移行の概念を整理し、関係者が共通理解を持てるようにして欲しい

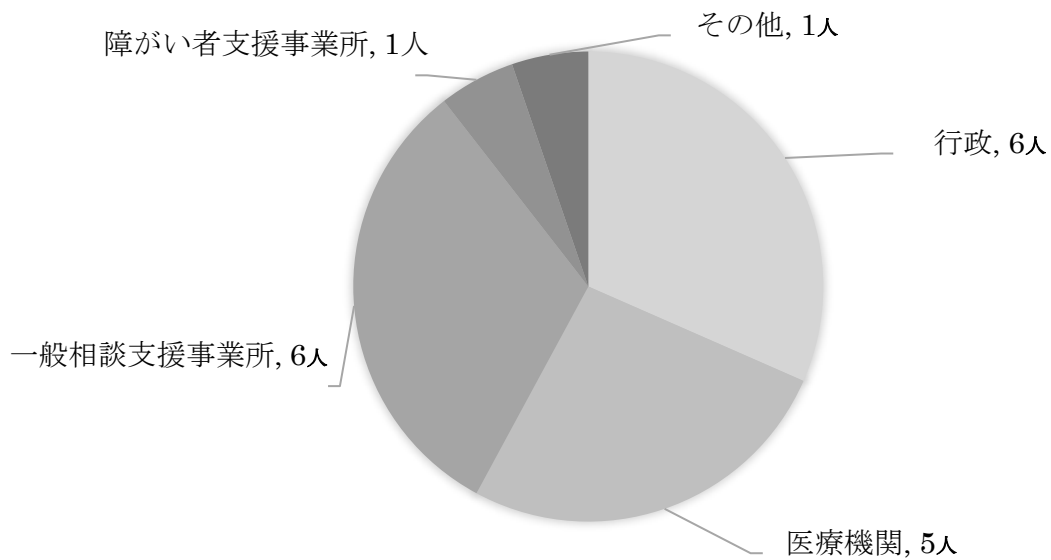
## 第2回事例検討会アンケート

令和6年12月9日  
長野県上田合同庁舎 6階講堂

\*事例提供者 丸子地域自治センター市民サービス課  
事例内容 入退院を繰り返しながら、地域生活を送られている精神障がい者が、支援者との関係を絶ってしまうため、今後の生活が心配。

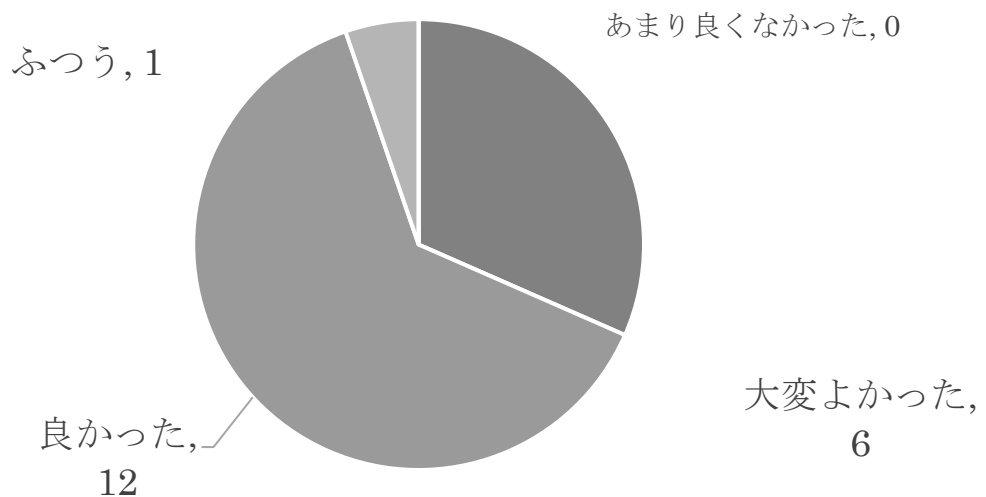
### 1 所属

ア、行政（6名） イ、医療機関（5名） ウ、一般相談支援事業所（6名）  
エ、障害者支援事業所（1名） オ、その他（1名）



### 2 事例検討会について

ア、大変よかった（6名） イ、良かった（12名）



ウ、ふつう（1名） エ、あまり良くなかった（0名）



## 【意見や感想】**抜粋**

- ・多くの支援者が経験している困り事を抱えた事例だったので、他の参加者がどのように対応しているかや、自分以外にも悩みながら支援していることが分かりました。
- ・同じような事例を経験しているところだったので、今回のグループワークで共有できたり、案を聞けたりして、とてもためになり、励まされました。なかなか振り返ったりする時間もない中で、色々な視点から話し合え、貴重な時間でした。
- ・行政の立場の方の事例検討は初めてだったので、いろいろな立場からの意見を聞くことができ、勉強になりました。
- ・訪問看護、ヘルパーステーション等の参加があればよかった。単なる“アイデア”を言い合うだけでなく、深めた話げできた。
- ・事例提供者がもう少し、ご本人との関わりがあって欲しかったと思いました。
- ・行政の立場で事例を出してもらい、グループ回すのも行政の方なので、分かる面もあり、気持ち等共有できてよかった。
- ・似たようなケースがあり、1つ1つの思い浮かんだことを試していこうと思った。その際には、関係者で連携していきたい。

## 3 事例検討会で取り上げて欲しいこと、要望 **抜粋**

- ・今回と逆で、支援者に依存しているパターンはありますか。

## 4 その他 **抜粋**

- ・病院に入院中で、退院先が困難な方を相談させてください。

### 事例検討会 まとめと考察

部会員以外に、一般相談支援事業所の相談支援専門員や、医療機関から退院後生活環境相談員にもご参加いただき、話し合いが厚みや深みのある内容となった。

日頃から、人材育成部会で行われている機能強化のGSVや相談支援実施教育OJT体制整備事業に参加されている相談支援専門員により、話し合いを引っ張って行っていただけた。

入退院を繰り返しながら、地域へ戻られた患者さんが、どの様に地域で生活されているのかを、精神科病院の職員に知ってもらう機会となった。また、日頃のかかわりとは違った形で行政職員と病院職員が顔合わせをしたことにより、相談しやすくなったという声もある。

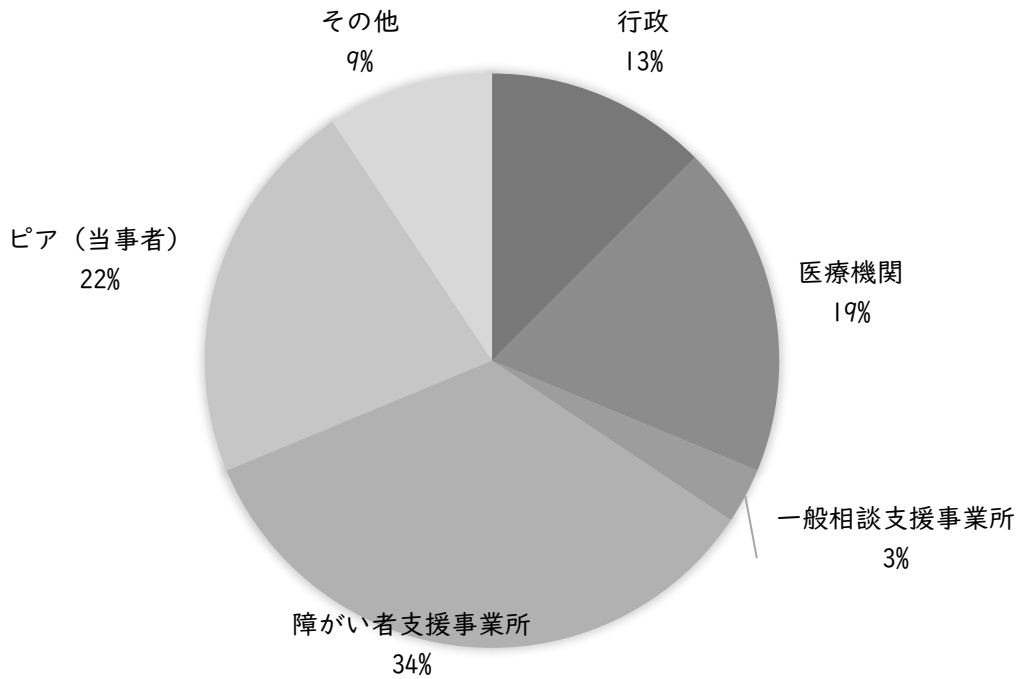
質問に答えられなかったり、今後の支援がより良いものになるためにも、事例報告者は1人に限らず、同じ支援チームの担当者にもお声掛けの必要性も感じた。

事例検討会の回数を重ねることで、事例検討に慣れていない方々にも、慣れて行っていただきたい。

参加者 43名 (うち事務局5名)

### 1 所属

ア、行政 (4名) イ、医療機関 (6名) ウ、一般相談支援事業所 (1名)  
エ、障害者支援事業所 (11名) オ、ピア (当事者) (7名) カ、その他 (3名)



### 2 研修内容について

#### ①ピアサポートによる体験談

ア、参考になった (32名) イ、難しかった (0名) ウ、どちらでもない (0名)



## 【意見・感想】 抜粋

- ・自身の症状悪化時の話を聞き、当事者だからこそ、耳を傾けてくれることもあると思った。
- ・当事者から語られる病気の実態や、支援者の関わり方のあり方について参考になることがたくさんありました。ピアサポーターになる＝役割となると考えると、1つのピアサポーターのあり方なのかなと思いました。
- ・肩書きがあることが自信となったという言葉が心に残った。その方のストレングスを活かして、役割があることの大切さに改めて気づくことができた。
- ・お話しいただいたこれまでのストーリーが脳内で再生されるほど、ありありとしていました。今後、私も味のある語りがしてみたいものです。参考になりました。
- ・今まで自分自身があまり「ピアサポートやリカバリー」についてうまく説明できていないところがあったのですが、今日のお話を聞いて、腑に落ちるところがたくさんあり勉強になりました。

### 〈その他〉

- ・当事者同士の繋がりで生きる意味を、生きていてもいいのだと自然に思える場があることがとても良いと思えました。
- ・様々な情報収集が出来て、参加して、良かったと思いました。又、チームでグループワークも出来、他の人のお話も聞けて参考になりました。

## ②講演

ア、 参考になった（32名） イ、難しかった（0名） ウ、どちらでもない（0名）



## 【意見・感想】 抜粋

- ・経験者として当事者と関わる際の声掛けについて、選択肢と情報を提供するというスタンスが大切だと思った。
- ・ピアサポートは語ることや、体験の共有が主になるとイメージがありましたが、今回の内容からそれ以外でも得意なことを活かす内容などもあって、ピアの活動の幅を知ることが出来ました。病気以外でも色々な関わり方ができると知るきっかけになりました。
- ・幅広い活動がとても刺激になりました。長く繋がり、関わりをもつためのセルフケアの部分。自身との折り合いのつけ方が参考になりました。
- ・ピアサポート活動から地域おこしというところにまで繋がるのだと気付けた。
- ・高橋さんの優しい語り口がすごく心地よくて、話の内容がずっと入ってきて、あっという間の一時間でした。幅広く精力的に活動されていてすごいなと思いました。

### 3 今後のピアサポートの活動について等、ご意見 抜粋

- ・グループの中に当事者の方が何名もおられました。ピアサポート研修有無問わず、興味のある方がアクセスできるような窓口をお示しいただくと良いと思います。
- ・上小圏域で活動している方の詳細や相談窓口が分かれば、教えていただきたいです。
- ・今回、メンバーさんがピアに興味があるとのことで参加させていただきました。メンバーからこのような相談を受けられたことに、メンバーの成長を感じています。今回タイミングよく、この研修に参加でき、とてもよい経験になりました。ありがとうございました。
- ・自分の住んでいる上田市（または周辺地域）のピアサポートについて、もっと知りたくなりました。そして、知識を高めていきたいと思いました。
- ・当事者として色々な経験をしていく中で、ピアサポーターとして活動をしたいというのが目標です。身近な地域でも気軽に活動できる場があると良いと思いました。
- ・健常者と障害者、その垣根がなるべくなくなるようにしたい。
- ・東信地区においても、南信地区での活動を参考に、ピアサポートやピア種活動をもう少し積極的に活動が進んでいったら嬉しいです。よろしく願います。又、ピアの方達が安心して活動できる状況（体調や状況）も考慮していただけたらと思います。

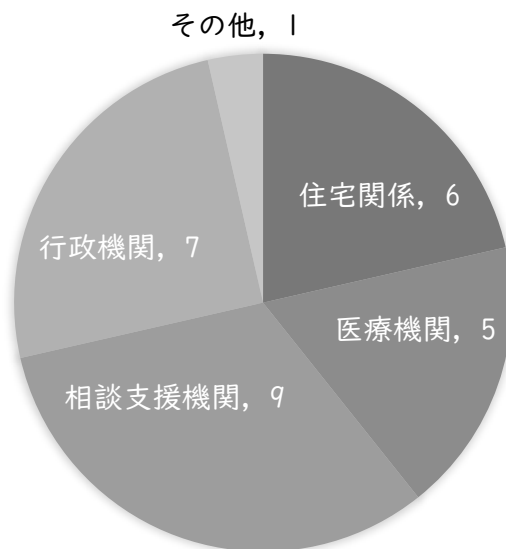
#### まとめと考察

定期的に行われている、”上小ピアサポートの会”もれび “の集いから「ピアサポートの学び直しがしたい」「ピアサポートの活躍の場を知りたい」「ピアサポートはどのように役立つのか」というご希望から、今回の研修を行った。上小ピアサポートの会は、細々と行っている活動ではあるが、上小にもピアの会があることを知っていただく良い機会となった。ただし、思いのほか、ピアの方々の集まる場の情報が行き届いておらず、地域活動支援センターの情報がもっと行き届けばよいと思う。高橋さんの講演では、ピアの方はもとより、関係者も勇気づけられる内容であった。どの様にピアの方を支援していくのかの点について、関係者からの話も聞きたいとの意見がでてくる。ピアサポートの会を細く長く継続しつつ、更に活躍できる場が提供できるようにしていきたい。

参加者 42名（うち講師2名、事務局4名）

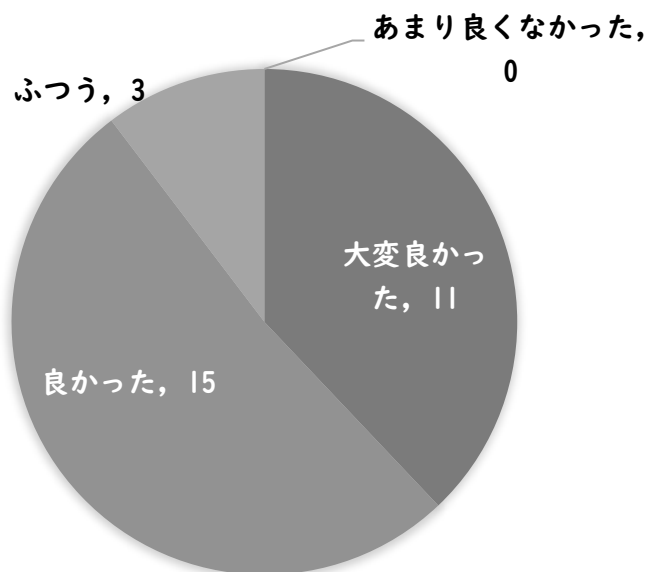
1 所属

- ①住宅関係（6名） ②医療機関（5名） ③相談支援機関（9名）  
④行政機関（7名） ④その他（1名） 無記入（2名） **計 30名**



2 勉強会の内容について

- ① 大変よかった（11名） ② 良かった（15名）  
③ ふつう（3名） ④ あまり良くなかった（0名） 無記入（1名）



### 3 勉強会についての意見や感想 抜粋

- ・パワーポイントがよくまとめられていて、参考になりました。意見交換は、もう少し時間を使って話が聞きたい。
- ・まいさぼの取り組みについて、知ることができた。
- ・福祉医療関係者と不動産業者の意見交換の機会は少ないので、貴重な機会だと思います。社協（まいさぼ）のお話しも制度が徐々に活用できている実態を知れて良かったです。制度のさらなる活用が望まれます。私自身も2ケース支援いただき助かりました。
- ・入居保証事業、生活支援事業の概要を理解することができました。今後の支援にいかしていこうと思います。
- ・グループワークの話し合いの内容の方向性がみえなかった。（収穫が少なかった）
- ・生活困窮者とは、生活困窮者自立支援制度、まいさぼとは…初めて参加させていただいたので、1から分かりやすくお話いただいととても分かりやすかったです。
- ・貸し手、借り手それぞれの心配や希望が聞けて良かったです。
- ・まいさぼの事業説明と利用の方法については、大変参考になりました。グループワークと、後の発表については、毎回やるべきか？検討いただきたいです。（やめても良いのでは…）
- ・自分の立場で今後できることはなにか。生活支援や体制づくりなど考え直すきっかけとなった。情報共有の必要性を感じましたし、参考になった。具体事例が分かりやすく、イメージができた。
- ・資料がみやすく、また内容が分かりやすくて良かったです。入居保証については、生活保護の方も同じようなことで困難なことがあるかと思うので、使用できると良いと思います。民間アパートに入居される場合は、仲介業者、オーナー様に保健師さんからクライシスプランの説明があると安心だと思います。

### 4 今後、勉強会で取り上げてほしいことや学びたいこと

- ・関わったことがある（今も継続中）身としては、精神障がいそのものではなく、「続かなさ加減」に困っています。特に、せっかく就労しても職場に行かなかったり、ひきこもりになって家賃滞納したりと、社会的信用を自ら失う行為をする人がいて、そういう人達に強制的に通院、その他をしていただく制度がないと続かないと思います。
- ・今後、増える事案なので引き続きお願いします。

#### まとめと考察

勉強会を積み重ねるごとに、それぞれが目的をもって参加されており、グループワークが濃密になっていっている。終了後に、職種を超えて名刺交換されている場面が多く見られた。ただし、勉強会やグループワークの目的が行き届いていなかった参加者もいたため、残念な意見がでており、改めて目的をお伝えしていく必要がある。また、安心して貸し借りするには何が必要かという所に対しての意見が出て来なかったため、住宅関係者との話し合いは必要と思われる。来年度は、何か形にできるものを一緒に作り上げて行きたい。

令和6年度

## 療育・発達専門部会 年度報告

テーマ	1 障がい児(者)の支援体制分析・点検 2 療育・発達障がい支援に関する圏域課題の検討（実践事例検討） 3 発達障がいに関する支援スキルの向上を図る
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	<p>■障がい児の地域社会への参加・包容を推進するため、圏域内児童発達支援センターと協議の場での検討を行います。</p> <p>■強度行動障がいを有する障がい児者のニーズ実態を把握し、支援体制の強化に向けた協議を進めます。</p> <p>■協議会の各専門部会等における個別事例の検討を積み重ね、地域の課題を共有し福祉サービス基盤整備を推進します。</p>


## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	部会			研修		部会		部会	研修	部会	
	強専		研修		研修		強専			強専	

強専：強度行動障がい支援専門チーム会議

## ■活動内容

開催月	活動概要
第1回 5月8日	令和6年度 活動計画について 1. Q-SACCS について説明 2. Q-SACCS 研修会について 場所：上田市ふれあい福祉センター 2F 市民ホール
研修会 8月1日	◇研修テーマ：「発達障害の地域支援体制整備～Q-SACCS と地域ケアパス～」 講師：本田 秀夫 氏 (信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授) (長野県発達障がい情報・支援センター 所長) ◇演習：市町村ごとに Q-SACCS を用いて地域の強みを発見しよう ◇参加者：44名（各市町村の福祉・保育・母子保健・教育・その他） ◇内容：・神経発達症の診断の発生率について ・インターフェイスのある支援システムについて 場所：ひとまちげんき・健康プラザうえだ 多目的ホール
第2回 10月9日	障がい児(者)の支援体制分析・点検のまとめ 1. Q-SACCS 研修会振り返り 2. 障がい児の支援体制について →不登校児童の居場所および保護者フォローについての課題 場所：上田市ふれあい福祉センター 2F 市民ホール

<p>第3回 12月6日</p>	<p>療育・発達障がい支援に関する課題の検討 1. 事例検討：20代家居、母子密着が強く支援の介入が困難なケース 2. 事例検討振り返り</p> <p style="text-align: right;">場所：上田市ふれあい福祉センター 2F 市民ホール</p>
<p>研修会 1月20日 24日</p>	<p>◇研修テーマ：「インクルーシブ保育とは～保育所等支援事業からの提案～」 講師：飯島 尚高 氏 (NPO 法人たんと。理事長) (上小圏域強度行動障がい支援アドバイザー)</p> <p>1/20 : 参加者：61名 (保育士、保健師、OT等) 1/24 : 参加者：66名 (保育士、行政等)</p> <div data-bbox="1193 320 1533 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>みんなが笑顔になる保育のヒント！</p> <p>『インクルーシブ保育とは』 ～保育所等支援事業からの提案～</p> <p>講師 飯島 尚高 氏 (強度行動障がい支援アドバイザー)</p> <p>講義とグループワークを組み合わせる楽しい研修会です。 参加お待ちしています。</p> <p>☆ 当日 教室の壁紙と敷き布団が分かれる 実演をスムーズで観てみてください。</p> <p>2025年 1月20日(月) 17時から18時30分 健康プラザうえだ 締め切り：1月15日(水)</p> <p>2025年 1月24日(金) 16時30分から18時 東御市中央公民館</p> <p>問合せ先：上小圏域障害者総合支援センター 担当：佐藤 ☎0268-28-5522</p> </div>
<p>第4回 2月21日</p>	<p>令和6年度 活動報告・振り返り 1. 障がい児支援体制整備について (Q-SACCS および事例の振り返り) 2. 来年度の活動について 3. 本会報告について</p> <p style="text-align: right;">場所：上田市ふれあい福祉センター 2F 市民ホール</p>

### ■考察・来年度に向けて

- 1 Q-SACCS を用いることで圏域内各市町村の障がい児支援体制が見える化できた。これまで障がい福祉分野以外の母子保健や教育、医療といった他領域分野の取り組みを知る機会が無かったため、発達障がい児支援体制全体の状況を把握することができた。次のステップとして、各市町村の Q-SACCS をケアパスに繋げていきたい。
- 2 発達障がいに関する課題ケースの事例検討を行った。成人のケースを通して幼少期の支援の在り方や重要性を再認識する機会となった。職種が違うメンバーや関わる対象年齢が違うメンバーでの事例検討の効果として、ライフステージに応じた発達障がい支援のイメージを得ることができ、見直しをもって今必要な支援を考えることができる。今後も事例検討の機会を設けていきたい。
- 3 発達障がいに関する支援スキルの向上を目的に、圏域内の保育士を対象とした研修会を開催した。圏域内の児童発達センター入園希望が増加する中、地域保育園のインクルーシブの推進にあたり、まず保育現場でできることは何か気づききっかけとった。

### ■参加機関

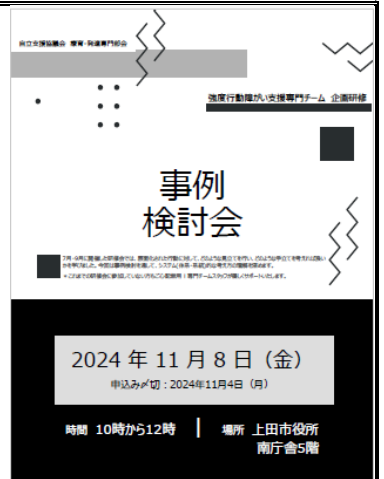
<p>行政機関</p>	<p>青木村住民福祉課 係長 上田市発達相談センター 係長 上田市障がい者支援課 担当者 上田市真田地域自治センター 市民サービス課 担当者 上田市丸子地域自治センター 市民サービス課 担当者 上田市武石地域自治センター 市民サービス課 担当者 東御市健康福祉部子ども支援課 係長 東御市子どもサポートセンター 担当者 長和町町民福祉課 係長</p>
-------------	---

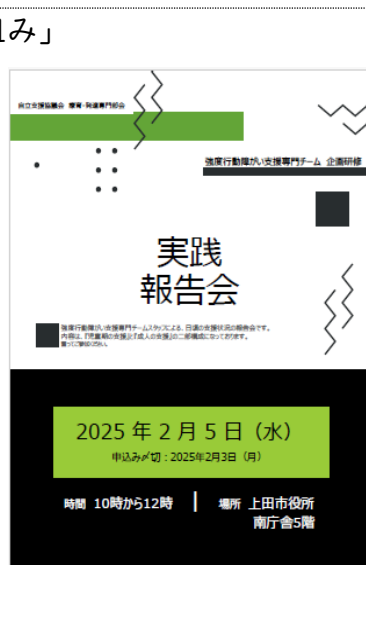


	上田保健福祉事務所
福祉事業所	社会福祉法人カルディア会 上田いずみ園 社会福祉法人上田明照会 蓮の音こども園
部会長	青木村住民福祉課 係長
副部会長	東御市健康福祉部子ども支援課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター

### 【強度行動障がい支援専門チーム会議】

開催月	活動概要
第1回 5月14日	令和6年度 活動計画について 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
第2回 7月2日	研修会打合せ 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
研修会 7月12日	◇研修テーマ：「こどもの行動の見立て方」 講師：飯島 尚高 氏 (NPO 法人たんと。理事長/上小圏域強度行動障がい支援専門チーム) ◇参加者：38名 (児童に係わる事業所の管理者、児発管、児童指導員、支援員、OT、相談支援専門員、行政 等) ◇内 容：・行動の見立てから具体的な支援方針・支援策の立て方 ・データの取り方と分析方法 場所：上田市ふれあい福祉センター3F 訓練室
第3回 8月30日	研修会打合せ 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
研修会 9月18日	◇研修テーマ：「行動障がい支援の基本」 講師：宮原 哲史 氏 (NPO 法人シャイン代表理事/上小圏域強度行動障がい支援専門チーム) ◇演 習：グループワーク ◇参加者：25名 (児童に係わる事業所の管理者、児発管、児童指導員、支援員、OT、相談支援専門員、行政 等) ◇内 容：・行動が持つ意味の理解と共有の仕方 ・支援を統一する方法 場所：上田市役所南庁舎5F 503会議室
第4回 10月1日	事例検討会打合せ 場所：上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール
事例検討会 11月8日	◇これまでの研修を活かした事例検討会について 講師：石川 直行 氏 (社会福祉法人樫ノ木福祉会/上小圏域強度行動障がい支援専門チーム) ◇事例検討：癩癩、暴言・暴力がある児童のケース ◇グループワーク ◇参加者：17名(児童に係わる事業所の管理者、児発管、児童指導員、支援員 等) 場所：上田市役所南庁舎5F 503会議室
第5回 1月14日	実践報告会打合せ 場所：上田市ふれあい福祉センター



<p>実践報告会 2月5日</p>	<p>◇実践報告1:「行動障がいがある方の支援～ミライエの取り組み」 報告者 和久井 翔太 氏 (放課後等ディサービスミライエ 主任・児童発達支援管理責任者／上小圏域強度行動障がい支援専門チーム)</p> <p>◇実践報告2:「Aさんが落ち着いて暮らせるように～思い込みからの早退～」 報告者: 矢上 篤志 氏 (社会福祉法人りんどう信濃会上田悠生／上小圏域強度行動障がい支援専門チーム)</p> <p>◇参加者: 26名 (児童に係わる事業所の管理者、児発管、児童指導員、支援員、OT、PT、相談支援専門員、行政等) 場所: 上田市役所南庁舎5F 503会議室</p>	
<p>第6回 3月5日</p>	<p>令和6年度 活動報告・振り返り 場所: 上田市ふれあい福祉センター2F 市民ホール</p>	

### ■考察・来年度に向けて

- 障がい程度の重さによって施設や事業所の受入れ状況が変わる現状の中、特に強度行動障がいがあると受け入れは極めて困難になるのが実態。専門チームでは「強度行動障がいさせない支援の普及」をモットーに、適切な支援の提供ができる人材育成のための研修会を開催した一年だった。“強度行動障がいとは…”認識のバラつきに驚いたこと。“なぜそういう行動になるのか”分析するためのデータ収集が不十分であるがために、自信が持てない支援を続けている現場の虚しさを感じたこと。今後も丁寧に伝え、一緒に考える研修を重ねていきたい。
- 他の事業所ではどんな支援をしているのか知りたいという要望の声が多くあった。次年度も事例検討会の開催を考えていきたい。

### ■参加機関(強度行動障がい支援専門チーム)

<p>福祉事業所</p>	<p>NPO 法人たんと NPO 法人シャイン 社会福祉法人かりがね福祉会 社会福祉法人りんどう信濃会 社会福祉法人樺ノ木福祉会</p>
<p>部会長</p>	<p>青木村住民福祉課 係長</p>
<p>事務局</p>	<p>上小圏域基幹相談支援センター</p>

# 就労支援専門部会 年度報告

テーマ	<p>1 就職困難性を抱える方の就職及び定着促進【就労支援者研修】 就労支援員の支援力アップと地域内の交流を深める為、支援機関向けの研修会を年2回開催する。</p> <p>2 職場の理解促進【中小企業雇用管理担当者研修】 障がい者の正しい理解や受入れに対して必要な知識や対応スキルを身につけるための研修を開催する。</p> <p>3 「障がい者雇用に関する事業所アンケート(令和3年度実施)」に基づき、企業等を訪問し好事例の収集を行い、情報還元をする。</p>
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	<p>■一般就労への定着支援体制の強化及び就労アセスメントを含む就労選択支援事業に係る協議の場を設置し、基盤整備の推進を図ります</p>

## ■活動実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		部会	企業研修		ワ	企業研修	支援者研修 ワ	部会 支援者研修	ワ	部会	

ワ：就労選択支援ワーキング

## ■活動内容

### 【就労支援部会】

開催月	活動概要
第1回 6月7日	<p>1. 令和5年度活動報告</p> <p>2. 令和6年度活動計画について</p> <p>3. ハローワーク上田管内の雇用情勢について</p> <p>4. 各支援機関より事業内容の説明及び報告 他</p> <p>(出席者28名) 場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>
第2回 12月5日	<p>1. 令和6年度就労支援専門部会 中間報告</p> <p>2. 各就労支援機関より報告等 ハローワーク上田・メビウスマーリン(事業内容等)・地域振興局(事業内容等)</p> <p>*第2回就労支援者研修同時開催</p> <p>(出席者20名) 場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>
第3回 2月25日	<p>令和6年度活動報告</p> <p>就労選択支援ワーキング報告</p> <p>ハローワーク上田管内の雇用状況について</p> <p>各事業所より状況報告</p> <p>意見交換「一般企業における職場定着について」</p> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>

【就労支援者研修】

開催月	活動概要
11月7日	<p>第1回就労支援者研修                      テーマ『支援者のあり方が利用者の望む未来を切り拓く Vol.1』                      講師：合同会社リベレイター組織開発コンサルタント 白石真樹氏                      対象：就労支援員・生活支援員・職業指導員・就労支援部会員                      参加者：17名</p> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>
12月5日	<p>第2回就労支援者研修                      テーマ『支援者のあり方が利用者の望む未来を切り拓く Vol.2』                      講師：合同会社リベレイター組織開発コンサルタント 白石真樹氏                      対象：就労支援員・生活支援員・職業指導員・就労支援部会員                      参加者：22名</p> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>

【中小企業雇用管理担当者研修】

開催月	活動概要	
7月22日	<p>第1回障がい者雇用管理担当者研修会                      テーマ①法定雇用率・助成金について                      講師：上田公共職業安定所雇用指導官 池田洋一氏                      テーマ②長野障害者職業センターの事業主支援                      講師：長野障害者職業センター所長 野澤紀子氏</p> <p>令和6年4月に民間企業の法定雇用率は2.5%に引き上げられた。令和7年4月には除外率が引き下げられる。これらの制度改定の説明及び関係する助成金等についての研修をおこなった。</p> <p>参加企業：26社（31名）+関係機関11名                      場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>	<p>第1回障がい者雇用管理担当者研修会                      事業主各位</p> <p><b>参加費 無料</b></p> <p><b>障害者雇用促進のための研修会</b>                      ～助成金及び職場定着支援を知ろう～</p> <p>令和6年4月障害者法定雇用率が引き上げられました。障害者雇用促進に向け、本研修会では障害者の採用から雇用管理まで、実務の参考となる障害者雇用に関する助成金、障害者が働き続けられるよう支援する助成金等の説明及び職業リハビリテーション専門機関から雇用管理に関する支援等についてご案内します。                      実際の雇用や職場定着に向けた具体的な一歩として、ぜひご参加ください。</p> <p>テーマ①法定雇用率・助成金について                      講師：上田公共職業安定所                      雇用指導官 池田 洋一氏</p> <p>テーマ②長野障害者職業センターの事業主支援                      講師：長野障害者職業センター                      所長 野澤 紀子氏</p> <p>日時：令和6年 7月22日(月) 13:30～15:00                      場所：上田市ふれあい福祉センター 2階大会議室                      (上田市中央3-5-1)</p> <p>【駐車場】                      敷地内にごさいますが、満車の場合は近隣駐車場をご利用くださいますようお願い申し上げます(有料)</p> <p>共催 上田公共職業安定所 上小園域障がい者自立支援協議会                      申し込みは裏面へ</p>
10月30日	<p>第2回障がい者雇用管理担当者研修会                      テーマ：多様な人材活用で労働力不足を解消                      ～ダイバーシティを知る、学ぶ、実践する～                      講師：NPO法人ArrowArrow代表 海野千尋氏</p> <p>法定雇用率の引き上げにより、多くの企業が障害者採用の变革や拡大を求められている。今研修はダイバーシティ、インクルージョン等、多様な人材活用という視点でグループワークを取り入れた。</p> <p>参加企業：5社（6名）+関係機関13名                      場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室</p>	<p>第2回障がい者雇用管理担当者研修会</p> <p>事業主各位</p> <p><b>参加費 無料</b></p> <p><b>多様な人材活用で労働力不足を解消</b>                      ～ダイバーシティを知る、学ぶ、実践する～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティとは</li> <li>ダイバーシティを推進するメリット</li> <li>多様な人材活用の事例</li> <li>ダイバーシティを体感するワークショップ</li> <li>ダイバーシティを始めていくために</li> <li>長野県ライフスタイルに合わせた多様な働き方創出事業について</li> </ul> <p>日時：2024年10月30日(水) 15:00～17:00                      場所：上田市ふれあい福祉センター2階大会議室                      (上田市中央3-5-1)</p> <p>講師：海野千尋さん NPO法人ArrowArrow代表                      中小企業ワークスタイル研究会事務局長、女性再就職支援事業「マインドアーツ」プロジェクト講師などを兼任。                      2013年にArrowArrowにジョイン。新しい働き方のプラットフォーム作りを実践。現在は、働き方における企業コンサル、自治体協働事業推進、企業自治体キャリアデザイン研修講師などを実施。</p> <p>資料等準備のため、できるだけ事前に申し込みをお願いたします。                      主催：上小園域障がい者自立支援協議会                      共催：上田公共職業安定所</p>

## 【就労選択支援ワーキング】

開催月	活動概要
第1回 9月5日	就労選択支援事業概要（資料の読み合わせ） 場所：上田市ふれあい福祉センター2階市民ふれあいホール
第2回 11月19日	勉強会 県就労支援部会長による情報提供 意見交換など 場所：上田市ふれあい福祉センター2階市民ふれあいホール
第3回 1月28日	地域の課題の抽出及び意見交換 場所：上田市ふれあい福祉センター2階市民ふれあいホール

### ◎就労選択支援ワーキングの目的

令和7年度に創設される「就労選択支援事業」の事業概要を理解するとともに、地域における課題を抽出し、課題解決に向けて意見交換をする。また、関係機関との情報共有を図り、新制度創設に備える。

### ◎今年度のねらい

地域課題の把握・情報共有・（課題解決）

障害者総合支援法の改正により、「就労アセスメント」の手法を活用した支援が制度化されるが（令和7年10月施行）、現時点では事業内容についての情報がなかなか得られていない。ワーキングを通じ

①制度の概要②就労アセスメントシートの内容③地域の課題等について情報共有・意見交換をおこない、新制度創設に備える。

### ◎ワーキングメンバー

就労支援専門部会部会長・就労支援専門部会副部会長・上田保健福祉事務所・上田養護学校・就労移行支援事業所（2事業所）・SHAKE（4名） 計10名

## ■考察・次年度に向けて

就労支援部会では障がいのある方が長く働き続けられるために必要な環境作りを行っている。

テーマ①就労支援者研修は、今後に向けて特に重点的な取り組みが必要であるという認識から開催数を増やしている。今年度は更に連続研修を行うことで、持続的なスキルの向上、実践的な応用につながるような取り組みを行った。研修に参加することで互いに交流し、関係を築き、情報や意見の交換をおこなうことができた。次年度においても研修内容を吟味し、研修開催の必要性を感じている。

テーマ②中小企業雇用管理担当者研修は、今年度においても2回開催した。令和6年4月に障害者の法定雇用率の引上げがあり、企業においては障害者の採用を増やすことや職場環境の整備、従業員全体の理解を深めるための教育やトレーニングが求められている。政府や自治体からの支援や補助金制度等について、ハローワーク上田・長野障害者職業センターから講師を招へいし、研修を行った。研修テーマへの反響が高く、26社（31名）の企業が参加された。次年度においても研修内容を吟味し、研修開催の必要性を感じている。

テーマ③企業への定着訪問、支援相談に応じ、課題への対応策等を助言してきた。また、圏域の企業で取り組んでいる業務の切り出し方法や職場の対応など多くの好事例を知ることができた。それらをまとめ企業や支援機関に還元していくことをテーマに掲げていたが、未達成となった。次年度においては、障害者雇用の好事例について情報の還元を図りたい。

■参加機関

福祉・就労支援機関	若者サポートステーション、上田市生活就労支援センター、東御市生活就労支援センター、就労定着支援事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所
医療機関	千曲荘病院 鹿教湯病院 三才山病院
教育機関	長野県上田養護学校、長野県佐久技術専門校、長野大学
行政機関	長野県上田保健福祉事務所福祉課、長野県上田地域振興局、長野県長野地域振興局、上田市福祉部障がい者支援課、上田市丸子地域自治センター市民サービス課、上田市真田自治センター市民サービス課、上田市武石地域自治センター市民サービス課、上田市商工観光部地域雇用推進課、東御市福祉部福祉課、長和町町民福祉課、青木村住民福祉課
部会長	東御市健康福祉部福祉課福祉援護係 係長
副部会長	上田公共職業安定所 就職促進指導官
事務局	上小圏域障害者就業・生活支援センターSHAKE



# 令和6年度 上田所管内の障害者雇用状況

上田公共職業安定所

雇用障害者数は870.5人、実雇用率は2.60%

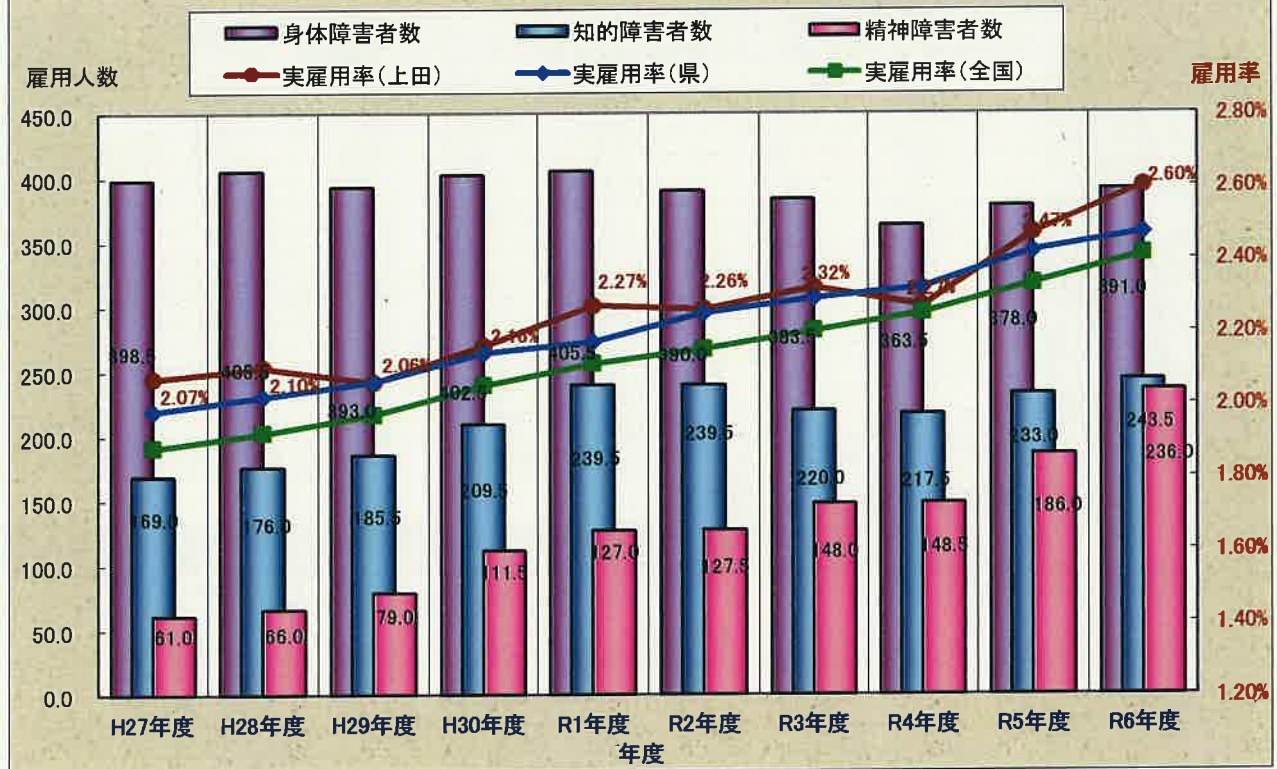
確報<各年6月1日現在>

第1表 障害者雇用数と雇用率の推移（過去10年間）

	雇用障害者数				雇用率比較			《参考》 法定雇用率
	身体障害者数	知的障害者数	精神障害者数	障害者合計	実雇用率(上田)	実雇用率(県)	実雇用率(全国)	
H27年度	398.5	169.0	61.0	628.5	2.07%	1.98%	1.88%	2.0% ↓ 2.2% ↓ 2.3% ↓ 2.5%
H28年度	405.5	176.0	66.0	647.5	2.10%	2.02%	1.92%	
H29年度	393.0	185.5	79.0	657.5	2.06%	2.06%	1.97%	
H30年度	402.5	209.5	111.5	723.5	2.16%	2.14%	2.05%	
R1年度	405.5	239.5	127.0	772.0	2.27%	2.17%	2.11%	
R2年度	390.0	239.5	127.5	757.0	2.26%	2.25%	2.15%	
R3年度	383.5	220.0	148.0	751.5	2.32%	2.29%	2.20%	
R4年度	363.5	217.5	148.5	729.5	2.27%	2.32%	2.25%	
R5年度	378.0	233.0	186.0	797.0	2.47%	2.42%	2.33%	
R6年度	391.0	243.5	236.0	870.5	2.60%	2.47%	2.41%	

※令和6年4月から民間企業の法定雇用率が2.3%から2.5%に改定

◆ 第1表 雇用障害者人数と雇用率の推移（過去10年） ◆



## 概要

◇当所管内(上田市、東御市、長和町、青木村)で障害者の法定雇用率2.5%が適用される民間企業195社(常用労働者数40.0人以上規模の企業)に雇用される障害者数は870.5人(うち、身体391.0人、知的243.5人、精神236.0人)となり、前年より9.2%の増加となった。障害種別では身体は3.4%の増、知的は4.5%の増、精神は26.9%の増とすべてにおいて前年を上回っている。

管内の障害者実雇用率は2.60%で前年(2.47%)を0.13pt上回った。また、雇用率達成企業の割合は62.6%で前年(70.0%)を7.4pt下回った。未達成企業73社のうち、障害者を1人も雇用していない「0人雇用企業」は41社、また、1人不足企業は58社で79.5%を占めている。

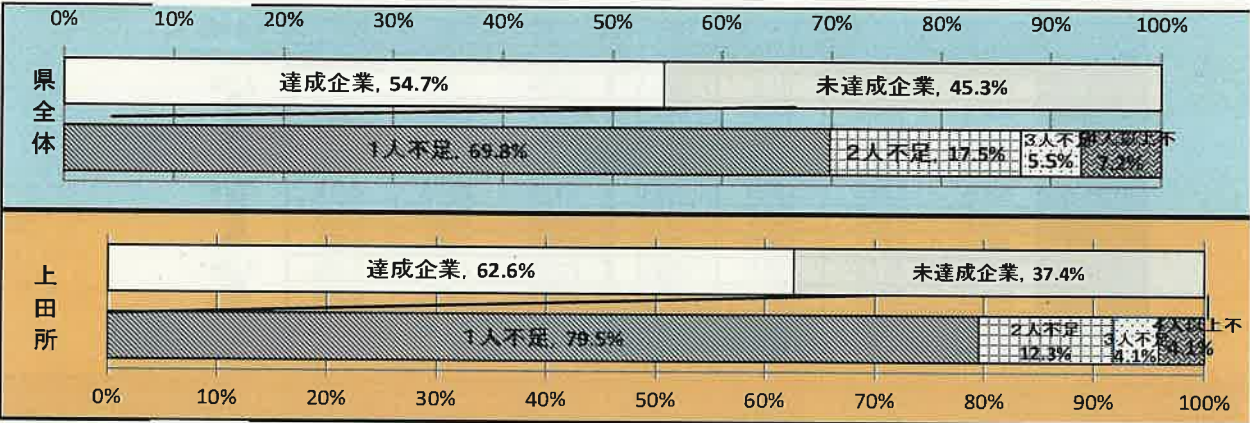
【注】※ 重度身体又は重度知的障害者については、その1人の雇用をもって2人の身体又は知的障害者を雇用しているものとしてカウントされます。  
 ※ 重度身体又は重度知的障害者である短時間労働者(1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者)については、1人分として、重度以外の身体及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者については、0.5人分としてカウントされます。  
 ※ 精神障害者である短時間労働者については、当分の間、その1人をもって1人分としてカウントされます。  
 ※ 重度身体障害者、重度知的障害者又は精神障害者である特定短時間労働者(1週間の所定労働時間が10時間以上20時間未満の労働者)については、0.5人分としてカウントされます。



# 令和6年度 上田所管内の障害者雇用状況

第2表 雇用率の達成状況（県比較）

	企業数	達成企業割合	未達成企業割合	未達成企業の雇用不足人数別割合			
				1人不足	2人不足	3人不足	4人以上不足
県全体	1,918	54.7%	45.3%	69.8%	17.5%	5.5%	7.2%
上田所	195	62.6%	37.4%	79.5%	12.3%	4.1%	4.1%
上田所(企業数)		122	73	58	9	3	3

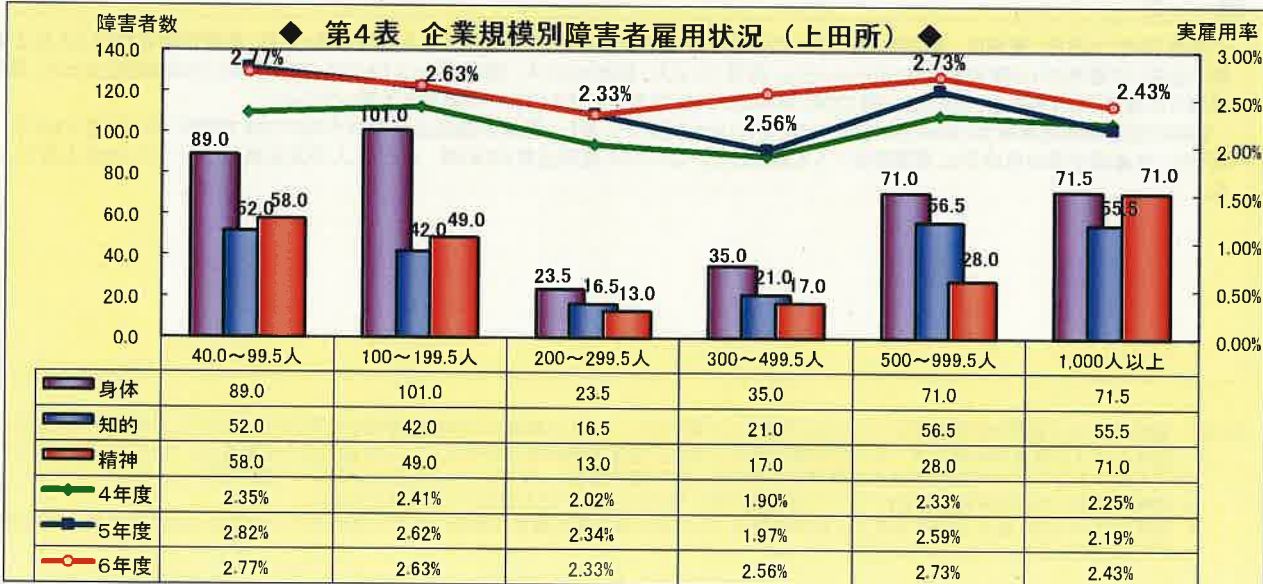


第3表 産業別障害者雇用状況（上田所）

	6年度の障害者雇用人数(産業別)				障害者の実雇用率(産業別)		
	身体	知的	精神	合計	4年度	5年度	6年度
農業・林業・漁業	0.0	0.0	1.0	1.0	1.82%	1.82%	1.96%
建設業	2.0	0.0	0.0	2.0	0.00%	0.68%	1.06%
製造業	154.0	121.0	79.0	354.0	2.21%	2.38%	2.49%
電気・ガス・熱供給・水道業	3.0	0.0	0.0	3.0	1.62%	1.31%	2.07%
情報通信業	14.0	0.0	3.0	17.0	1.33%	1.67%	1.98%
運輸・郵便業	17.5	5.5	10.5	33.5	2.38%	2.78%	2.55%
卸売・小売業	29.0	4.0	3.5	36.5	2.10%	2.25%	2.13%
金融・保険業	3.0	0.0	2.0	5.0	2.23%	2.06%	1.95%
不動産・物品賃貸業	2.0	0.0	1.0	3.0	1.25%	1.76%	1.80%
学術研究・専門・技術サービス業	1.0	0.0	0.0	1.0	1.33%	0.84%	0.49%
宿泊・飲食サービス業	54.5	54.0	58.0	166.5	2.25%	2.24%	2.41%
生活関連サービス・娯楽業	6.0	6.0	3.5	15.5	2.63%	2.71%	2.79%
教育・学習支援業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00%	0.00%	0.00%
医療・福祉	61.5	45.5	62.5	169.5	2.79%	3.24%	3.57%
複合サービス業	14.5	2.0	0.0	16.5	2.91%	3.17%	2.88%
サービス業	29.0	5.5	12.0	46.5	2.05%	2.65%	3.01%
合計	391.0	243.5	236.0	870.5	2.27%	2.47%	2.60%

第4表 企業規模別障害者雇用状況（上田所）

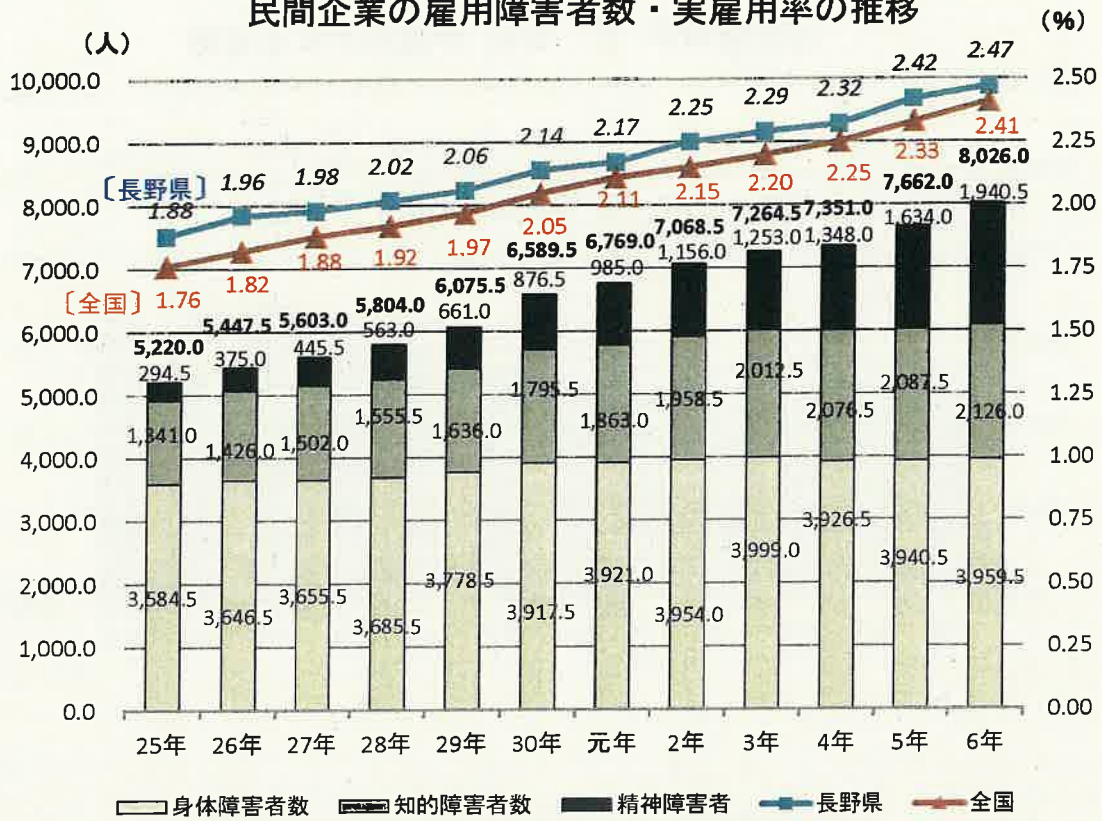
	6年度の障害者雇用人数(企業規模別)				障害者の実雇用率(企業規模別)		
	身体	知的	精神	合計	4年度	5年度	6年度
40.0～99.5人	89.0	52.0	58.0	199.0	2.35%	2.82%	2.77%
100～199.5人	101.0	42.0	49.0	192.0	2.41%	2.62%	2.63%
200～299.5人	23.5	16.5	13.0	53.0	2.02%	2.34%	2.33%
300～499.5人	35.0	21.0	17.0	73.0	1.90%	1.97%	2.56%
500～999.5人	71.0	56.5	28.0	155.5	2.33%	2.59%	2.73%
1,000人以上	71.5	55.5	71.0	198.0	2.25%	2.19%	2.43%
合計	391.0	243.5	236.0	870.5			



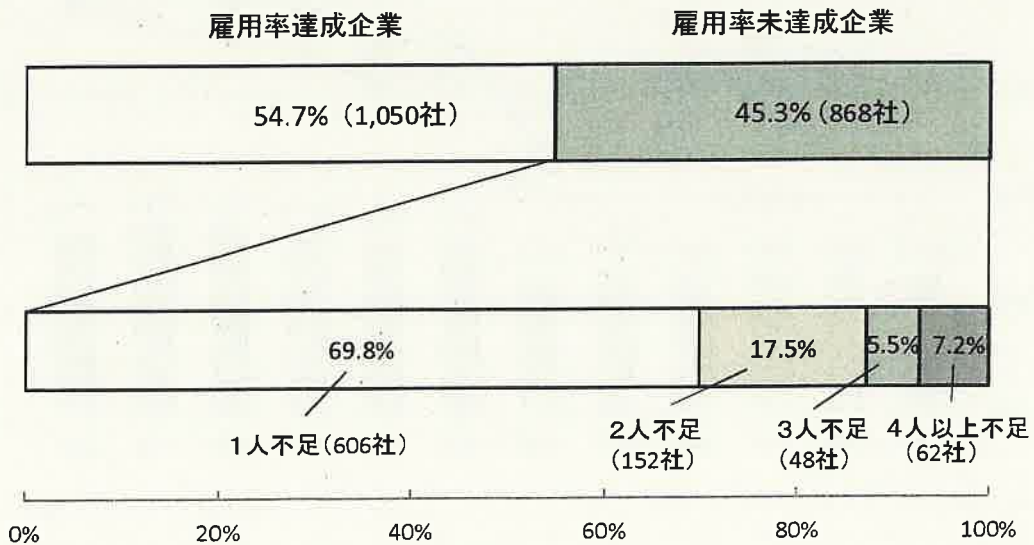


# グラフで見る障害者の雇用状況

## 民間企業の雇用障害者数・実雇用率の推移

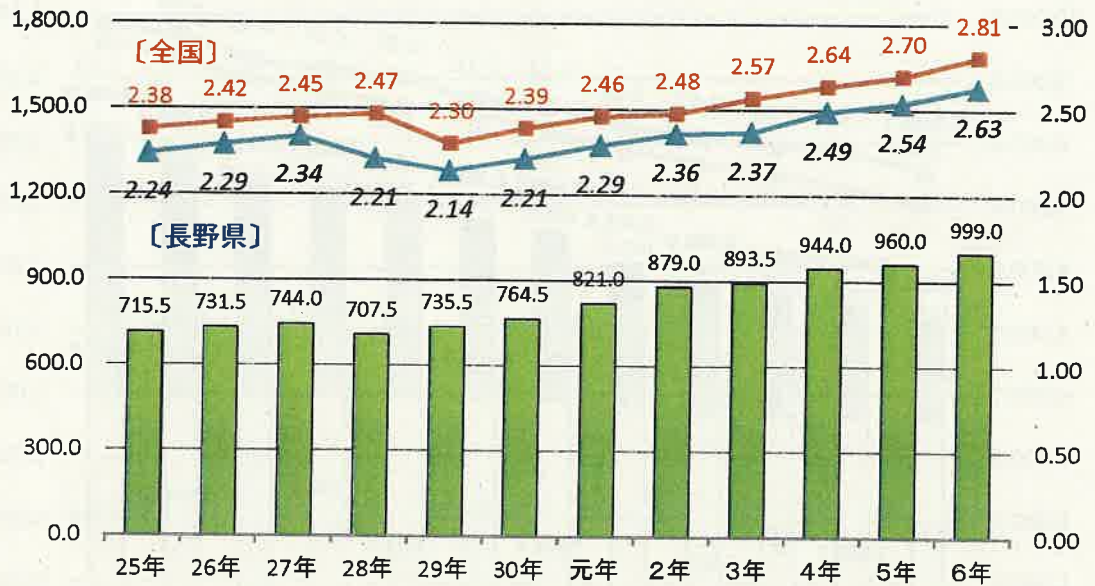


## 法定雇用率達成企業・未達成企業の割合

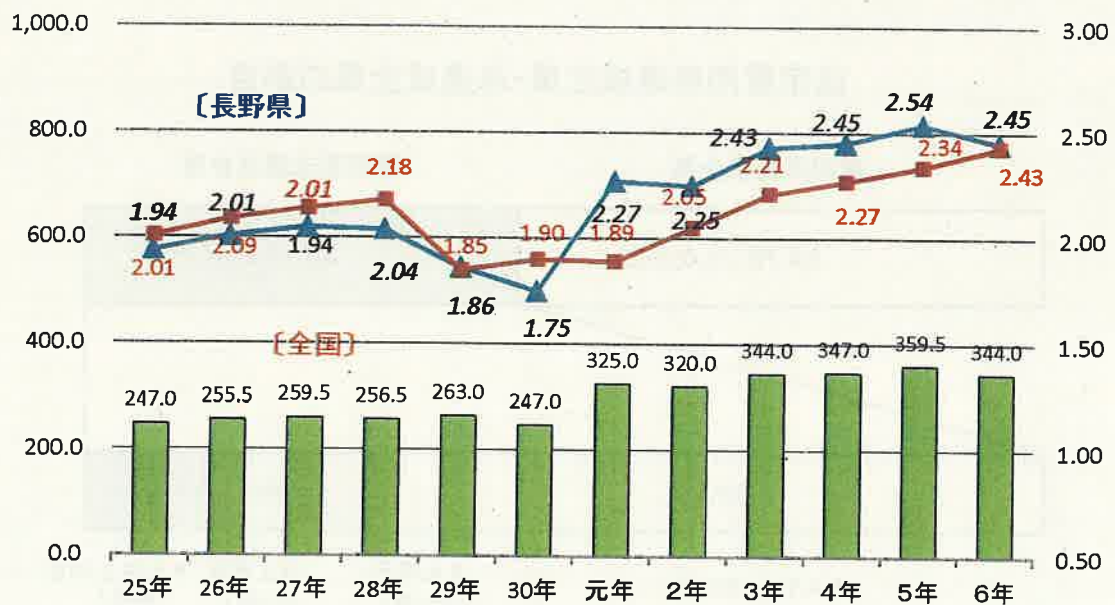


## 地方公共団体等の在職障害者数・実雇用率の推移

### 法定雇用率 2.8% が適用される機関



### 法定雇用率 2.7% が適用される機関



障害者の雇用状況について（上田公共職業安定所管内 令和7年1月末現在）

### 1 新規求職申込件数

1月末時点の障害者新規求職申込件数（表1）は、前年比2.7%の増加となった。  
障害種別（表2）では発達・難病等が増加している。

表1 新規求職申込件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	39	55	52	53	44	42	52	55	42	49	52	54	589
令和6年度	49	57	45	41	40	48	77	39	45	55			496
増減	10	2	▲7	▲12	▲4	6	25	▲16	3	6	▲52	▲54	▲93

表2 障害種別ごとの新規求職申込件数

	令和5年度		令和6年度		前年度比増減 件数
	件数	比率	件数	比率	
身体	111	18.8%	88	17.7%	▲23
知的	87	14.8%	74	14.9%	▲13
精神	354	60.1%	285	57.5%	▲69
発達・難病等	37	6.3%	49	9.9%	12
合計	589	100.0%	496	100.0%	▲93

### 2 有効求職者数

障害種別で、有効求職者全体のうち精神障害者が6割を占めている。

表3 有効求職者数（月平均値）

	令和5年度		令和6年度		増減
	人数	比率	人数	比率	
身体	114	20.7%	98	19.9%	▲16
知的	75	13.6%	67	13.6%	▲8
精神	337	61.2%	297	60.4%	▲40
発達・難病等	25	4.5%	30	6.1%	5
合計	551	100.0%	491	100.0%	▲60

### 3 紹介件数

発達・難病等の紹介件数は年々減少傾向であったが、今年度は増加した。  
精神障害者の紹介件数は令和4年度が例年に比べ多かった。

表4 障害種別ごとの紹介件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度比(件)		
					R3	R4	R5
身体(件)	129	119	123	135	▲10	4	12
知的(件)	113	82	83	85	▲31	1	2
精神(件)	604	702	649	421	98	▲53	▲228
発達・難病等(件)	94	49	40	68	▲45	▲9	28
合計(件)	940	952	895	709	12	▲57	▲186

## 4 就職件数

1月末時点の障害者就職件数(表5)は、前年度と同じ191件となった。  
障害種別(表6)では、発達・難病のみ増加となった。

表5 就職件数の対前年比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	22	19	18	19	20	20	15	16	31	11	22	21	234
令和6年度	22	18	16	19	14	21	16	24	20	21			191
増減	0	▲1	▲2	0	▲6	1	1	8	▲11	10	▲22	▲21	▲43

表6 障害種別ごとの就職件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度比(件)		
					R3	R4	R5
身体(件)	36	35	44	36	▲1	9	▲8
知的(件)	57	50	38	24	▲7	▲12	▲14
精神(件)	138	152	143	112	14	▲9	▲31
発達・難病等(件)	25	8	9	19	▲17	1	10
合計(件)	256	245	234	191	▲11	▲11	▲43

表7 長野県内安定所毎の障害者就職件数

	長野	松本	上田	飯田	伊那	篠ノ井	飯山	木曾 福島	佐久	大町	須坂	諏訪
令和4年度(件)	364	514	245	166	197	177	66	23	239	71	65	190
令和5年度(件)	392	533	234	170	158	222	104	19	244	55	79	203
令和6年度1月末(件)	341	480	191	128	166	207	78	20	241	50	63	192
R5・R6年度増減(件)	▲51	▲53	▲43	▲42	8	▲15	▲26	1	▲3	▲5	▲16	▲11

※ 佐久所には小諸出張所分が、諏訪所には岡谷出張所分がそれぞれ含まれます。

## 5 紹介成功率(就職件数/紹介件数)

全体の紹介成功率では例年並みの状況。障害種別では、知的障害の登録者の紹介成功率が低下している。精神と発達・難病等は二年連続増加している。

表8 障害種別ごとの就職率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度対比(%)		
					R4	R5	R6
身体(%)	27.9	29.4	35.8	26.7	1.5	6.4	▲9.1
知的(%)	50.4	61.0	45.8	28.2	10.5	▲15.2	▲17.5
精神(%)	22.8	21.7	22.0	26.6	▲1.2	0.4	4.6
発達・難病等(%)	26.6	16.3	22.5	27.9	▲10.3	6.2	5.4
合計(%)	27.2	25.7	26.1	26.9	▲1.5	0.4	0.8

# 人材育成専門部会 年度報告

テーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談支援専門員の質の向上を目指した圏域内 OJT 実施と検証【意思決定支援】</li> <li>2 相談支援体制強化に向けた検討</li> <li>3 主任相談支援専門員のスキルアップ研修を踏まえたスーパーバイザー養成</li> </ol>
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	<p>■ 圏域内におけるケアマネジメント検証とスーパービジョンによる OJT 体制を継続実施し、支援の質の向上を図ります。</p>

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
連絡会	部会		部会	説明会	OJT	部会 OJT	部会 OJT	OJT	OJT	部会	

## ■活動内容

開催月	活動概要
機能強化型 連絡会 4月24日	<p>令和6年度 機能強化型サービス支援費申請事業所連絡会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和5年度 実践の振り返り及び各事業所の体制状況の共有</li> <li>2. 令和6年度 報酬改定および地域生活支援拠点登録について</li> <li>3. 実地教育に関する実施方法の整理・説明</li> </ol> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 大会議室</p>
第1回 5月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度 人材育成専門部会 年間計画の検討及び部会員の紹介</li> <li>2. 令和6年度 長野県相談支援従事者研修に向けた情報共有</li> <li>3. 主任相談支援専門員 スキルアップ研修について</li> </ol> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>
第2回 7月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度 長野県相談支援従事者初任者研修 内容及び実習対応に向けて</li> <li>2. 相談支援 OJT 体制整備事業の具体的実施に向けた検討および検証方法について</li> <li>3. 令和6年度 主任相談支援専門員 推薦の検討</li> </ol> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>
説明会 8月6日	<p>令和6年度 相談支援実地教育 OJT 体制整備事業 実施に向けた説明会</p> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>
第3回 10月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度 長野県相談支援従事者初任者研修実習の振り返り</li> <li>2. 令和6年度 長野県相談支援従事者現任研修 実施に向けて</li> <li>3. 相談支援 OJT 体制整備事業の中間評価</li> <li>4. 上小圏域における相談支援体制強化に向けた実際と検討</li> </ol> <p>場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>

<p>第4回 11月27日</p>	<p>1. 令和6年度 相談支援実地教育（OJT）体制整備事業 中間評価および 上小圏域における相談支援体制強化について ・第3回までを終えた振り返り ・主任相談支援専門員 スキルアップ研修 報告 ・下半期 上小圏域相談支援事業所 事業指定情報</p> <p>2. 令和6年度 長野県相談支援従事者 現任研修 実習②について 場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>
<p>第5回 2月14日</p>	<p>1. 令和6年度 長野県相談支援従事者 現任研修 実習②の振り返り 2. 令和6年度 相談支援実地教育 OJT 体制整備事業 振り返り 及び 評価方法の 検討 3. 令和6年度 人材育成専門部会 振り返り 令和7年度 機能強化型サービス支援費申請事業所 連絡会日程について 場所：上田市ふれあい福祉センター 2階 市民ホール</p>
<p>R6年9月   R7年1月</p>	<p>相談支援 OJT 体制整備事業の実施 令和6年9月から令和7年1月（5か月）の間、月1回の OJT 実施 （全相談支援事業所対象） 場所：上田市ふれあい福祉センター・上田市役所会議室・東御市勤労者会館 他</p>

#### ■考察・来年度に向けて

<p>・他圏域や他地域では相談支援事業所の休止や相談支援専門員の不足などが課題となっている中、上小圏域においては機能強化型サービス支援費の申請を進める事業所が多く、全体の半数が機能強化型（相談支援専門員の専任）の指定を取った年度であり、相談支援の質の向上に向けた相談支援実地教育 OJT 体制整備事業も4年目を迎え、参加率や内容の充実した年度であった。グループスーパービジョンは主任相談支援専門員の提案によりスキルアップ研修を企画・実施出来たことなど、スーパーバイザーの自己研鑽の機会を設けることが出来た。また、OJT の内容や評価方法についても活発な議論が行われている。</p> <p>・法定研修の実習についても、告示内容や研修カリキュラムの事前学習会を行い、内容の充実を図ることが出来た。</p> <p>・次年度は相談支援の質の評価方法のスケールなど、専門的知見も頂戴しながら進めていきたい。</p>
--

#### ■参加機関

<p>福祉事業所</p>	<p>主任相談支援専門員5名 （相談支援事業所やすらぎ・相談支援センターほっと・ムネマル相談支援センター・つつじ・清泰会相談支援事業所）</p>
<p>行政機関</p>	<p>上田市障がい者支援課 東御市福祉課 長和町町民福祉課 青木村住民福祉課</p>
<p>部会長</p>	<p>丸子地域自治センター市民サービス課 係長</p>
<p>事務局</p>	<p>上小圏域基幹相談支援センター</p>



# 運営委員会 年度報告

テーマ	1 上小圏域障がい者自立支援協議会・本会運営及び各委員会の運営 2 第7期障害福祉計画/第3期障害児福祉計画の進捗管理 3 強度行動障害支援体制の整備に向けた検討システムの構築 4 各委員会・専門部会からの課題検討の整理と検討 5 長野県自立支援協議会との連動 日中支援型グループホームの評価の実施
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域生活支援拠点の強化に向けて、拠点機能を担う事業者登録の推進と地域定着支援台帳整備の更なる推進を図ります。</li> <li>■ 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、多職種連携会議に係る協議の場の設置を推進します。</li> <li>■ 強度行動障がいを有する障がい児者のニーズ実態を把握し、支援体制の強化に向けた協議を進めます。</li> <li>■ 医療的ケア児等の児童発達支援事業や放課後等デイサービスの更なる基盤整備を図ります。</li> </ul>	

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会	委員会 協議会		委員会		委員会	委員会 協議会		委員会		委員会	委員会 協議会

## ■活動内容

開催月	活動概要
第1回 4月19日	1. 令和6年度 運営委員会事業計画 2. 令和6年度 協議会組織体制の検討 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
第2回 5月14日	第51回 上小圏域障がい者自立支援協議会 本会内容の検討 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
5月27日	第51回 上小圏域障がい者自立支援協議会 本会 場所：上田合同庁舎 南棟
第3回 7月19日	第51回 上小圏域障がい者自立支援協議会 本会の振り返り 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
第4回 9月27日	第52回 本会の運営について 福祉計画の進捗報告・各委員会・専門部会からの報告内容及び課題等の確認 上小圏域災害時緊急連絡通報訓練(9月28日 土曜日午前) 住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律等の一部を改正共有 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
10月28日	第52回 上小圏域障がい者自立支援協議会 本会 場所：上田合同庁舎6階 講堂

第5回 12月18日	長野県への中間報告内容について/重点施策等の最終報告に向けて 第52回本会の振り返り 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
第6回 2月21日	第53回 本会の運営について 令和6年度 運営委員会の振り返りと次年度に向けて 中核機能強化加算の申請の協議会の承認方法について 強度行動障害事業者アンケート・ヒアリング状況の中間報告 日中支援型グループホームの訪問調査（評価）報告について サービス等利用計画の利用者の同意署名について 場所：上田市ふれあい福祉センター市民ホール
3月26日	第53回 上小圏域障がい者自立支援協議会 本会 場所：上田合同庁舎6階 講堂

### ■考察・来年度に向けて

福祉計画の作成年度は、毎月もしくは月数回の開催で、開催回数が多い前年度と比較すれば、一定の期間ごとの開催となった年であった。

全ての委員会・専門部会での議論の内容や課題、推進状況などが網羅できる運営委員会であり、協議会全体を見渡せる会議となっており、情報共有できる場として位置づいていると感じている。

強度行動障害に関する委員会の設置も、先ずは実態把握年度として位置付けたため、調査協力や主計・分析については、運営委員会において周知・検討する場として1年目は役割を果たした。次年度は、強度行動障害支援体制整備検討委員会に置いて、圏域課題の本格的な検討に入ってもらう予定です。

上小圏域の本会については、令和7年度より圏域の住民にも活動や検討状況を周知できる公開での開催を目指していくことをご提案したい。それにより、当事者や当事者家族、支援機関にも、これまで以上に協議会への理解と現状を把握して頂けると思います。先ずは、本会傍聴希望者や報道機関にも会場にお越しいただけるようになればと感じます。

次年度からは、協議会全体（本会・各委員会・各専門部会）の会議録に関しても、精度高いAIの活用を導入し、事務局負担や効率化を図りながら協議会の発展と充実に向けて行ければと検討しています。

### ■参加機関

行政機関	上田市障がい者支援課 係長 2名 上田市丸子地域自治センター市民サービス課 係長 上田市真田地域自治センター市民サービス課 係長 東御市福祉課 係長 東御市こども家庭支援課 係長 長和町町民福祉課 係長 青木村住民福祉課 係長
委員長	長野県上田保健福祉事務所 福祉課係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター



令和7年3月26日

## 中核機能強化事業所加算の申請の協議会の承認方法（案）

上小圏域障がい者自立支援協議会 運営委員会

## 1. 目的

上小圏域の第3期障がい児福祉計画の目標としてインクルージョン推進を目指しています。一方、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定においては、児童発達支援センターの中核機能の発揮を促進する観点から、各市町村において、地域の中核的役割を果たす機関として位置付けられました。専門人材を配置して地域の関係機関と連携した支援の取組を進めるため「中核機能強化加算」を創設された。

## 【4つの機能】

- ① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能
- ② 地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能
- ③ 地域のインクルージョン推進の中核機能
- ④ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

## 2. 中核機能強化事業所の選定の流れについて

## 【選定の要件】

1. 自立支援協議会（療育発達部会・医療的ケア児支援連携推進委員会）への参画
2. 自治体から事業の受託実績がある事業所
3. 既に市町村との連携の下で、地域の中核的な役割を市町村が認めた事業所
4. 地域障害児支援体制中核拠点登録適合チェックリスト内容を実施すること

## 【制定の流れと圏域協議会の役割】

本加算の趣旨や要件・中核機能強化事業所としての役割等について、各市町村が説明し登録の意志を確認し、各市町村障がい福祉担当課において承認を得て、長野県への申請し、加算事業所としての指定を受ける。

上小圏域障がい者自立協議会においては、中核機能強化事業所の加算指定を受けて、協議会本会において、4つの機能を担う事業所として周知を図り、地域実践へとつなげていく。

令和6年度

## 医療的ケア児等支援連携推進委員会 年度報告

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケア児者の災害時個別避難計画作成モデル事業</li> <li>2 医療的ケア児者支援スキルアップ研修（医療的ケア児等総合支援事業タイアップ）</li> <li>3 医療的ケア児等への医療職の人材育成と支援体制の整備</li> <li>4 医療的ケア児等の避難行動要支援者名簿の更新（10月）</li> <li>5 発達支援とインクルーシブ支援体制に向けた検討</li> </ul>
上小圏域第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の重点施策の該当項目	<p>■ 医療的ケア児等の児童発達支援や放課後デイサービスの更なる基盤整備を図ります。</p>

## ■活動予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局会議	委員会			研修	委員会					委員会	

## ■活動内容

開催月	活動概要
第1回 4月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 令和6年度医療的ケア児等支援連携推進委員会事業計画の素案検討</li> </ul> </li> <li>2. 委員会開催準備</li> <li>3. 第51回協議会本会報告について</li> </ul> <p style="text-align: right;">場所：ごきげんスペースうえだ</p>
第2回 5月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会全体会 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 令和6年度事業計画の検討</li> </ul> </li> <li>2. 災害時個別避難計画の作成に向けて</li> <li>3. 第7期障害福祉計画/第3期障害児福祉計画の推進に向けて</li> <li>4. ご家族への応援パンフレットの更新について</li> </ul> <p style="text-align: right;">場所：上田市西部公民館</p>
第3回 9月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケア児等を対象とした災害発生時の避難受入シミュレーション(訓練)</li> <li>2. 停電を想定したEV車両からの事業所電源の復旧（呼吸器電源の確保）訓練</li> </ul> <p style="text-align: right;">場所：ごきげんスペースうえだ</p>
第4回 9月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 事例検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 災害時個別避難計画の作成モデル事例の検討</li> </ul> </li> <li>2. 第52回協議会本会報告について</li> <li>3. 医療的ケア児等避難行動要支援者名簿の更新</li> </ul> <p style="text-align: right;">場所：上田市ふれあい福祉センター</p>

第5回 11月3日	1. 令和6年度医療的ケア児等支援者スキルアップ研修 【医療的ケア児の災害対策】 長野県医療的ケア児等支援センター（予定） 場所：ひとまちげんき・健康プラザうえだ2階 多目的ホール
第6回 2月12日	1. 第53回協議会本会報告について ア) 災害時個別避難計画・避難マニュアルの様式報告 イ) 第3回委員会【医療的ケア児等に係る圏域研修（災害時支援）】報告 ウ) 令和6年度医療的ケア児等コーディネーター活動報告 エ) 令和6年度医療的ケア児等総合支援促進事業「ごきげんスペースうえだ」活動報告（研修アンケート結果報告を含む） オ) 第53回協議会本会への委員会報告について 場所：上田市ふれあい福祉センター
随時	臨時コア会議・年度計画に基づく事務局会議など

### ■考察・来年度に向けて

医療的ケア児の災害時個別避難計画を、令和7年度に作成を推進し、個別で避難訓練が実施できるための方策を検討し、全員に避難計画が届けられる実践を進める必要がある。

圏域研修（医療的ケア児への支援者の人材育成）に関しては、委員参加も含めて開催日を平日・休祭日など、参加しやすい曜日の検討を行って頂くように依頼した。

県立こども病院など、基幹病院と地域との連携については、引き続き現場レベルでの情報共有やケースを通じた会議等での情報共有を図り、継続して連携システムを検討していく必要がある。長野県全県でのシステムに関しては、長野県医療的ケア児センターへ協議会を通じて依頼している状況もあり、上小の連携周知パンフレットは、継続更新して次年度も活用を促して行ければと感じている。

### ■参加機関

医療機関	病院(MSW・OT・PT・ST) 訪問看護ステーション
福祉事業所	医療的ケア児者への通所・短期入所事業所 訪問入浴サービス事業所 居宅介護支援事業所 相談支援事業所（重症心身障がい児者担当者）
行政機関	長野県上田保健福祉事務所福祉課 長野県上田保健福祉事務所健康づくり支援課 市町村障害福祉児童担当者 市町村保健師
委員長	上田市障がい者支援課 係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター 医療的ケア児等コーディネーター

## 令和6年度 医療的ケア児等総合支援事業 事業報告

令和6年2月12日  
 ごきげんスペースうえだ  
 管理者 市川美穂

## 【支援事業の内容】

(1) 事業所等における看護職員等の配置（「医療的ケア児等コーディネーター」の配置）

- ア 事業所等における医療的ケア児への医療的ケア等の実施
- イ 医療的ケア児とその家族等への支援（相談支援・レスパイト・きょうだい支援等）
- ウ 医療的ケアに従事する看護職員等への医療的ケア等の支援者の育成
- エ その他、市町村が必要と認めた事業

(2) 事業所等への医療的ケア等を行う看護職員の派遣

(1) 事業所等における看護職員等の配置（「医療的ケア児等コーディネーター」の配置）  
 看護師（管理者兼務）1名、相談支援専門員1名の計2名を医療的コーディネーターとして配置

（2025年1月末現在）

## 【事業所配置職員】

職 種	人 数
看護師	6名
リハビリ (PT)	3名
保育士	1名
学校教諭	2名
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者	1名
相談支援専門員	1名
支援員	2名

ア 事業所等における医療的ケア児への医療的ケア等の実施

（2025年1月末現在）

	令和7年度 予定	令和6年度	令和5年度
登録利用者数	28名 (25名)	28名 (25名)	20名 (18名)
上田市	24名 (22名)	24名 (21名)	18名 (16名)
東御市	2名 (2名)	2名 (2名)	1名 (1名)
長和町	1名 (1名)	1名 (1名)	0名
青木村	1名 (1名)	1名 (1名)	1名 (1名)

( ) 内は医療的ケア児者

	令和7年度 予定	令和6年度	令和5年度
児童発達支援	10名 (9名)	10名 (9名)	5名 (5名)
放課後等デイサービス	12名 (11名) 児童発達から放デイへ	12名 (10名)	11名 (9名)
生活介護	7名 (6名)	6名 (5名) 放デイより生活へ	4名 (4名)

【医療的ケアの状況】

医療的ケアの内容	令和7年度 予定	令和6年度	令和5年度
人工呼吸器	3名	4名	2名
気管切開カニューレ・人口鼻管理	7名(1名)	8名	6名
酸素管理 (酸素ボンベ・モニタリング・酸素濃縮器)	2名	3名	2名
気管内吸引	7名(1名)	8名	6名
口鼻腔吸引	14名(1名)	14名	10名
経鼻胃管管理・注入	3名	6名	3名
胃ろう管理・注入	12名(2名)	14名	10名
血糖管理(血糖測定・リブレ管理 ・低血糖対応・インスリン注射等)	2名	2名	2名
けいれん・てんかん発作等の対応 (観察・座薬等)	11名	8名	7名
膀胱瘻・導尿	0名	2名	0名

( )内の数字は3月、4月、5月胃ろう・気切の手術予定者  
・放課後等デイサービス利用者1名 児童発達支援利用者1名 計2名 逝去

イ 医療的ケア児とその家族等への支援(相談支援・レスパイト・きょうだい支援等)

【みんなでごきげん(保護者サロン)】

回	開催日	テーマ	担当
第6回	令和6年6月14日(日) 13時30分～15時	ごきげん2号・ミスト浴槽 見学体験会 フリートーク	ごきげんスペースうえだ 市川
第7回	令和6年10月6日(日) 13時30分～15時	V2Hシステムと電気自動車による 給電体験 上田市役所 障がい者支援課 原係長さん・大木さんとの懇談	ごきげんスペースうえだ 神谷
第8回	令和7年3月2日(日) 13時30分～15時	茶話会 スペシャルゲストとおいしい お菓子を食べながらトークを 楽しみましょう!	ゲスト こどもクリニックこもろ 院長 島崎 英 医師

- ・ 第6.7回 坂城町より1名参加
- ・ 第6回 上田市より利用者ではない重心の保護者の方1名参加

【相談支援】

- ・ 利用者に変化(身体・精神的)があった時の受診について等の相談アドバイス
- ・ 支援会議への参加 29回
- ・ 利用者の病状等に関する医療機関との連携会議 3回
- ・ 往診元医療機関・基幹病院・こども病院・行政・相談員等関係各所との連携
- ・ 在宅療養中の児宅訪問(保健師・相談員同行) 3回

【レスパイト・きょうだい支援】

- ・ 定期利用日以外にも、きょうだいの保育園、学校行事、受診などによる利用希望がある場合に、臨時受入れを実施
- ・ きょうだい、家族の受診や体調面に関する相談等に対応
- ・ 訪問診療を利用されている利用者について、利用日にごきげんにおいて往診を受入れ
- ・ 利用者の情報提供の実施
- ・ 悪性腫瘍再発児の利用受入れ(家人が付き添うことで利用可とした)
- ・ 長期休業時にごきげんで実施する行事等への家人やきょうだいの参加(希望があったが、兄弟は体調不良のため当日欠席 家人は2名参加)

## ウ 医療的ケアに従事する看護職員等への医療的ケア等の支援者の育成

### 【研修の開催】

- 上小圏域医療的ケア児等総合支援事業による研修
  - ・ テーマ 「医療的ケア児等の災害対策 ～各地の避難訓練の経験を踏まえて～」
  - ・ 開催日 令和6年 11月3日
  - ・ 講師 長野県健康福祉部 障がい者支援課  
医療的ケア児等支援センター 副センター長 亀井智泉氏
  - 参加者 32名（内3名 Web参加）
- 川辺保育園保育士を対象とした経鼻経管栄養に関する研修会  
参加者 5名

### 【上田養護学校 学校看護師との連携】

- ・ 学校長期休業時にごきげんスペースうえだの臨時職員として勤務
- ・ 養護学校生徒を中心に医ケア、療育、リハビリについて情報交換、提供を実施
- ・ 利用者の連絡ノートを通じて、他事業所との情報交換、提供、共有を実施

### 【事業所看護職員研修】

- ・ 8月 てんかん研修 2月 呼吸器研修
- ・ 通年 新しい医ケアについては手技獲得ができるように、随時事業所内研修を実施

### 【全職員対象研修】

- ・ 8月 救命救急研修 11月 胃管について 1月 誤嚥、窒息時の対応について

### 【上田市つむぎの家との交流】

- ・ つむぎの家の移転、ごきげん新事業所の開設に伴い、双方の事業所見学を実施

## エ その他、市町村が必要と認めた事業

- ・ 医療的ケア児等支援連携推進委員会 事務局会 参加
- ・ ごきげんスペースうえだ2号（新館）を4月に開設、5月末より本格稼働  
6月よりミスト浴槽の利用を開始（利用者：生活介護4名、放デイ4名）
- ・ ごきげんスペースうえだ1号（旧館）を新たな用途に変更  
上田市医療的ケア児等災害対応サポート事業の拠点として活用 V2H 配備  
利用者が多い時の活動の場、長期休業時のイベント、支援会議、保護者会等に活用
- ・ ごきげんスペースの定員を、定員5名から6名へ1名増員（8月）
- ・ 災害サポートセンター  
医療的ケア児等を対象とした停電発生時の避難受入れのためのシュミレーション  
訓練を実施（9月）

## (2) 事業所等への医療的ケア等を行う看護職員の派遣

今年度は派遣実績なし

### 【課題】

- ・ 現在、土曜日については毎週開所しているが、利用希望者が少なく、またキャンセルが多いため、土曜日は1日平均2名程度の利用に留まっている。  
職員の働き方の改善も考慮し、来年度から土曜日の開所日については、月2回としていくことを検討する。
- ・ 医療的ケア児等支援者研修について、さらに多くの参加者を得ることができるよう、企画について検討していく。



【ミスト浴槽】



【保護者サロン】

第6回



第7回



令和6年度

## 障がい児者地域包括ケアシステム検討委員会 年度報告

テーマ	1 市町村包括エリア毎の連携強化に向け、全体会の開催（年2回） 2 包括支援センター毎の障がい児者の相談支援・市町村との個別ケース会議開催 3 地域住民との連携するための取り組みの模索 4 65歳移行期障がい者の説明の推進（60歳～65歳以降リストの作成） 5 居宅介護事業所の実態調査やケアマネジャーとの連携の体制整備の検討
上小圏域第7期障害福祉計画重点施策の該当項目	■ 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、多職種連携会議に係る協議の場の設置を推進します。

## ■活動予定 ※上田市全体会

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局 会議	委員会	包括 訪問	包括 訪問							委員会	

## ■活動内容

開催月	活動概要
上田市 5月1日	令和6年度事業計画案の検討 ア) 地域包括エリア担当者の選任 イ) 第1回全体会の開催内容の検討 場所：上田市役所
上田市 第1回 5月21日	1. 第1回上田市障がい児者地域包括ケアシステム検討委員会（全体会議） ア) 令和6年度委員会計画 イ) 令和5年度の事業報告 ウ) 障害福祉制度改正（報酬改定）に伴う情報提供
第2回 2月17日	2. 地域包括エリア毎のネットワーク会議並びに各包括支援センター訪問調整 (1) 令和6年度 障がい児者包括ケアシステム検討委員会本会報告について (2) 令和6年度 包括支援センターとの会議・研修等の活動連携中間報告について (3) 令和6年度の振り返りと次年度に向けて（包括エリア毎のグループワーク） 場所：上田市役所
東御市 連絡会 連携会議	東御市障がい児者地域包括ケアシステム検討委員会（全体会議） ア) 民間介護・福祉事業所連絡会【定例会】【研修会】 イ) 多職種連携会議（医師・看護師・ケアマネ・リハ専門職・薬剤師・介護職）【定例会】 場所：東御市役所
長和町 毎月開催	長和町障がい児者地域包括ケアシステム検討委員会（全体会議） ア) 毎月開催【第一月曜日 9:30～】※協議会事務局参加5月 2月 場所：長和町役場
青木村	青木村障がい児者地域包括ケアシステム検討委員会（全体会議） ア) 65歳移行者リストの共有及び課題検討 場所：青木村役場



## ■考察・来年度に向けて

全体会では、事例検討の重要性と高齢介護と相談支援専門員の研修体制を保活エリア研修に周知参加調整へのより強化が求められています。

制度利用の狭間や制度併用利用に関するケース共有も好事例としての各種効果をもたらすと、本年度実践で体験しています。

サービス利用の無いケースの共有方法の検討が必要。特に災害時支援や引きこもり支援など、介護者の高齢化や介護者が不在になってから、課題が生じてしまう恐れもあり、包括支援センターから障害分野への情報提供が行われる地域ケア会議の開催など、機能強化していく連携体制も振り返りとして出された。なお、居宅介護事業所の不足（ニーズに答えられない）も圏域課題として出されている。

## ■参加機関

福祉事業所	相談支援専門員 福祉関係事業所（地域生活支援拠点登録事業所など） 居宅介護事業所（管理者または介護支援専門員）
医療機関	医師 精神科病院ソーシャルワーカー 看護師など
当事者団体	精神障害者当事者団体
地域包括支援センター	主任介護支援専門員または社会福祉士
行政機関	上田保健福祉事務所福祉課 市町村障害福祉係長及び推進担当者 市町村健康推進課保健師
（適時参加依頼）	社会福祉協議会、市町村児童分野
委員長	各市町村福祉係長
事務局	上小圏域基幹相談支援センター

## 令和6年度

### 【精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムに係る協議会】中間報告

## ■活動内容

開催月	活動概要
第1回 9月20日	1. 第1回にも包括協議会自衛検討会 ア) 事例検討の説明 イ) 事例検討 ウ) 振り返りと総括 場所：千曲荘病院 大会議室
第2回 10月3日	1. 第1回にも包括協議会 ア) 事例検討アンケート（大正製薬様より） イ) にも包括協議会要綱の検討 ウ) 上田市のにも包括ケアシステムつくりに向けた課題・情報共有 場所：千曲荘病院 大会議室
第3回 3月11日	1. 第2回にも包括協議会 メンタルヘルスに関する課題共有 ア) 課題集約について イ) 次年度の取り組みについて ウ) その他意見交換 場所：千曲荘病院 大会議室

■参加機関

行政機関	上田保健福祉事務所健康づくり支援課（課長/係長） 上田市福祉課(課長/係長) 上田市障がい者支援課(係長/主任) 上田市高齢者介護課(課長/課長補佐/主査) 上田市健康推進課(課長補佐/主査) 上田市子育て支援課(係長) 上田市教育委員会学校教育課(課長)
当事者団体	上田市やまびこ会 精神障がい者家族会(会長/会計)
福祉関係機関	上田市社会福祉協議会地域福祉推進課・生活支援課 所長 上小圏域基幹相談支援センター 所長/主任相談支援専門員
事務局	千曲荘病院会長（院長）/総師長
	千曲荘病院 ピア千曲・やすらぎ・地域移行推進室・にも包括推進室
	大塚製薬（株）地域包括推進室/医療営業部